

---

# 卒業調査結果報告書

十文字学園女子大学

---

# 目次

調査概要	3
1. 必要度と修得度 強み・課題（卒業年度別）	4
1-1. 必要度と修得度（卒業年度別）	5
必要度	6
修得度	7
1-2. ポートフォリオ分析	8
基本情報	9
全体	10
2013年度卒	11
2015年度卒	12
2017年度卒	13
2. 評価項目別分析	14
高評価・低評価グループの定義	15
学びの満足度別	16
卒業満足度別	17
大学推奨度別	18
相関分析について	19
相関分析	20
3. アンケート集計（卒業年度別）	21

# 調査概要

- 調査目的：卒業生を対象に、本学での学びに対する満足度、卒業満足度、大学推奨度、及び在学中に身につけた能力等についての実態把握と分析を行い、より良い大学作りに向けた検討材料とする。
- 調査対象：十文字学園女子大学卒業生（2013年度卒、2015年度卒、2017年度卒）
- 調査方法：インターネットによるアンケート調査
- 調査期間：2020年11月16日～2020年12月4日
- 発送数：1732人(不達31)
- 集計対象数：135人
- 回収率：7.9%(完全回答者)
- 回答者属性別件数：

卒業年度別	件数
2013年度（2014年3月卒）	35
2015年度（2016年3月卒）	45
2017年度（2018年3月卒）	55
合計	135

- 業務委託先：株式会社リアセック

---

# 1. 必要度と修得度 強み・課題（卒業年度別）

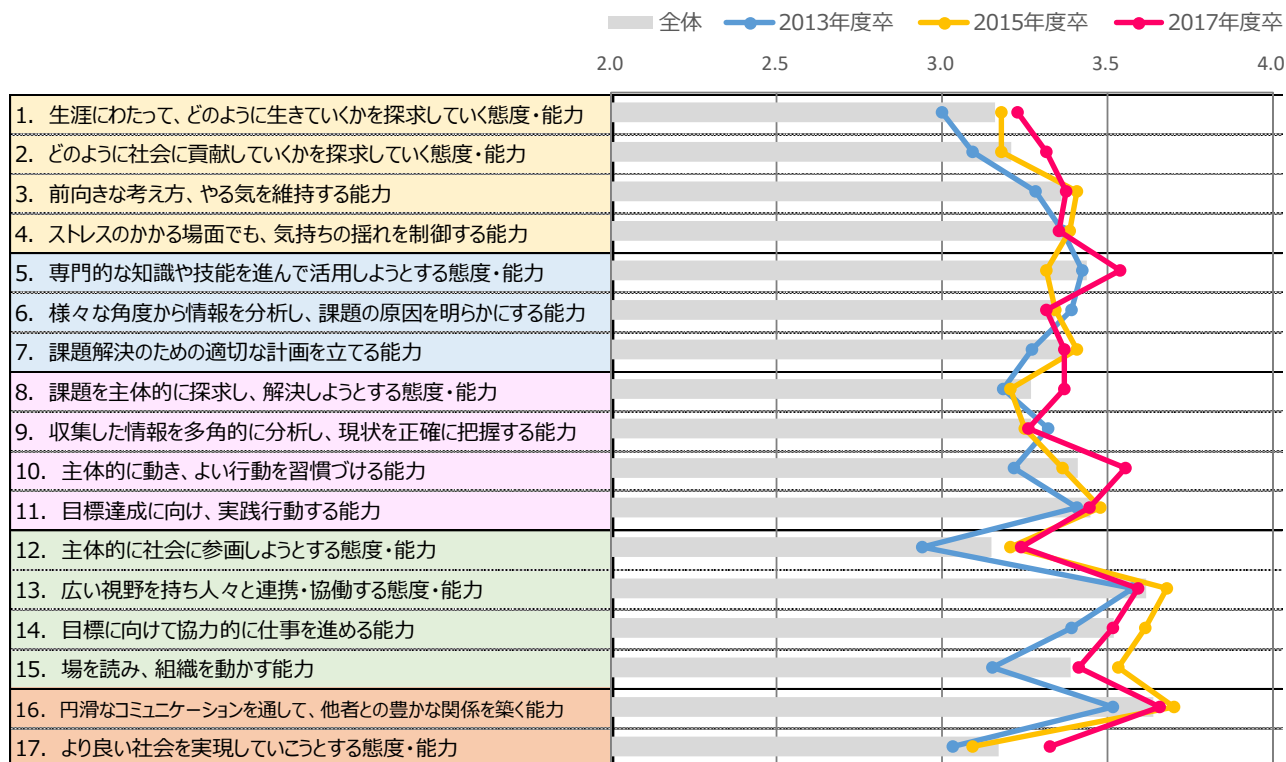
---

## 1-1. 必要度と修得度（卒業年度別）

# Q4.必要度（卒業年度別）

- ✓ 全体でみると、もっとも必要度が高いのは「16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力」、次いで「13. 広い視野を持ち人々と連携・協働する態度・能力」であった。
- ✓ 卒業年度別にみると、2017年度卒は上記2項目に加えて「10. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力」が上位に、2013年度卒は「12. 主体的に社会に参画しようとする態度・能力」が他と比べて特に低い。

## ■卒業年度別必要度比較



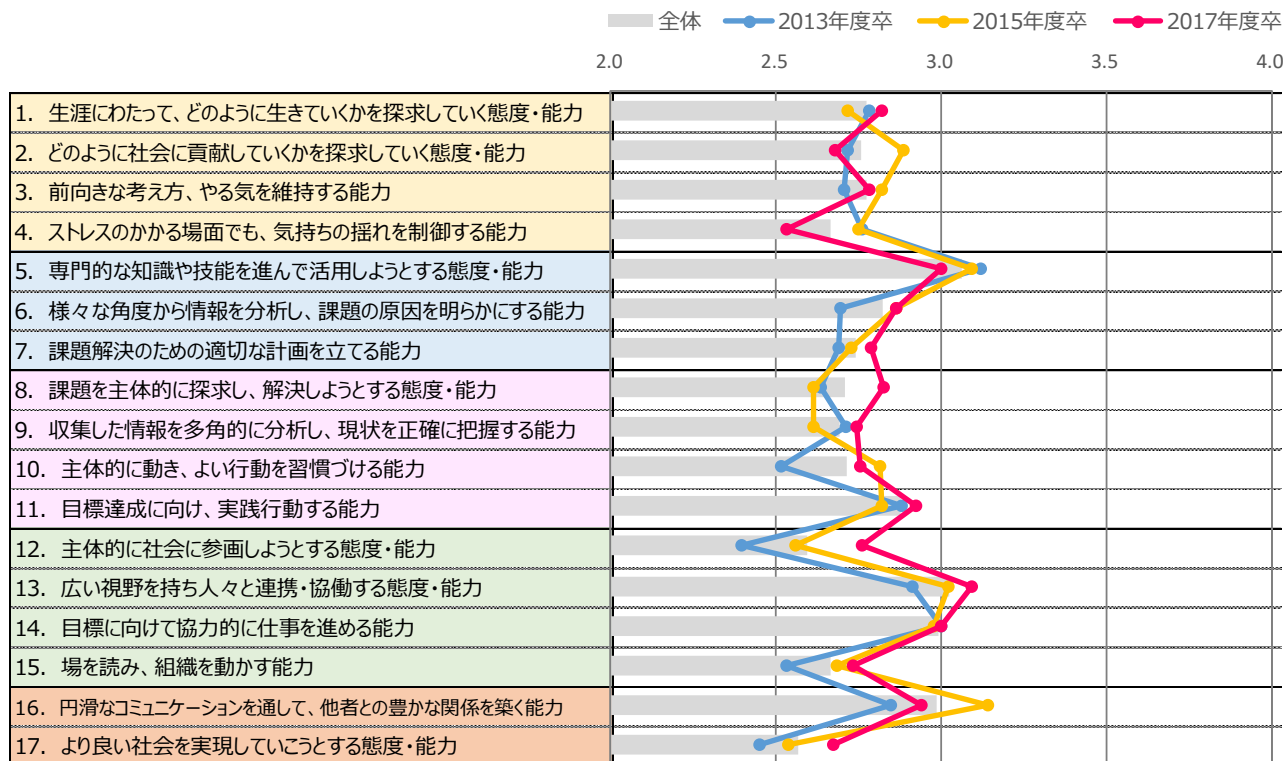
上位3項目  
下位3項目

平均値			
全体	2013年度卒	2015年度卒	2017年度卒
N=135	N=35	N=45	N=55
3.16	3.00	3.18	3.23
3.21	3.09	3.18	3.31
3.36	3.28	3.41	3.38
3.37	3.36	3.39	3.35
3.44	3.42	3.32	3.54
3.34	3.39	3.34	3.31
3.36	3.27	3.41	3.37
3.27	3.19	3.20	3.37
3.27	3.32	3.25	3.26
3.41	3.22	3.36	3.56
3.45	3.41	3.48	3.44
3.15	2.94	3.21	3.24
3.62	3.58	3.68	3.59
3.52	3.39	3.61	3.52
3.39	3.15	3.53	3.42
3.64	3.52	3.70	3.66
3.17	3.03	3.09	3.33

# Q4.修得度（卒業年度別）

- ✓ 全体でみると、もっとも修得度が高いのは「5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力」次いで「13. 広い視野を持ち人々と連携・協働する態度・能力」で、もっとも修得度が低いのは「17. より良い社会を実現していこうとする態度・能力」次いで「12. 主体的に社会に参画しようとする態度・能力」であった。
- ✓ 卒業年度別にみると2017年度卒は「4. ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力」が、2013年度は「12. 主体的に社会に参画しようとする態度・能力」が特に低い。

## ■卒業年度別修得度比較



上位3項目

下位3項目

平均値			
全体	2013年度卒	2015年度卒	2017年度卒
N=135	N=35	N=45	N=55
2.77	2.78	2.71	2.82
2.76	2.72	2.88	2.68
2.78	2.71	2.82	2.78
2.66	2.76	2.75	2.53
3.06	3.12	3.09	3.00
2.82	2.70	2.86	2.87
2.74	2.69	2.73	2.79
2.71	2.63	2.61	2.83
2.69	2.71	2.61	2.75
2.71	2.52	2.81	2.75
2.88	2.88	2.82	2.92
2.60	2.39	2.56	2.76
3.02	2.91	3.02	3.09
2.99	3.00	2.98	3.00
2.66	2.53	2.68	2.73
2.98	2.85	3.14	2.94
2.57	2.45	2.54	2.67

---

## 1-2. ポートフォリオ分析



# ポートフォリオ分析 基本情報

必要度：社会（職場）で必要とされている  
 修得度：大学時代の学修によって身についた

※加重平均値

よく当てはまる：4点、ある程度当てはまる：3点、あまり当てはまらない：2点、まったく当てはまらない：1点、として加重平均値を算出。  
 （わからない、無回答は除外）

## 【各能力の凡例と項目名】

<p>■（生涯にわたって）社会に貢献する意欲・探求力</p> <p>1. 生涯にわたって、どのように生きていくかを探求していく態度・能力</p> <p>2. どのように社会に貢献していくかを探求していく態度・能力</p> <p>3. 前向きな考え方、やる気を維持する能力</p> <p>4. ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力</p>	凡例 
<p>■（社会や地域で）専門的知識を活用する意欲・探求力</p> <p>5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力</p> <p>6. 様々な角度から情報を分析し、課題の原因を明らかにする能力</p> <p>7. 課題解決のための適切な計画を立てる能力</p>	凡例 
<p>■主体的に課題を探求し解決する意欲・探求力</p> <p>8. 課題を主体的に探求し、解決しようとする態度・能力</p> <p>9. 収集した情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する能力</p> <p>10. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力</p> <p>11. 目標達成に向け、実践行動する能力</p>	凡例 
<p>■社会に参画し人々と連携・協働する意欲・探求力</p> <p>12. 主体的に社会に参画しようとする態度・能力</p> <p>13. 広い視野を持ち人々と連携・協働する態度・能力</p> <p>14. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力</p> <p>15. 場を読み、組織を動かす能力</p>	凡例 
<p>■円滑なコミュニケーションを築き、人間主体の社会を実現する意欲・探求力</p> <p>16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力</p> <p>17. より良い社会を実現していこうとする態度・能力</p>	凡例 

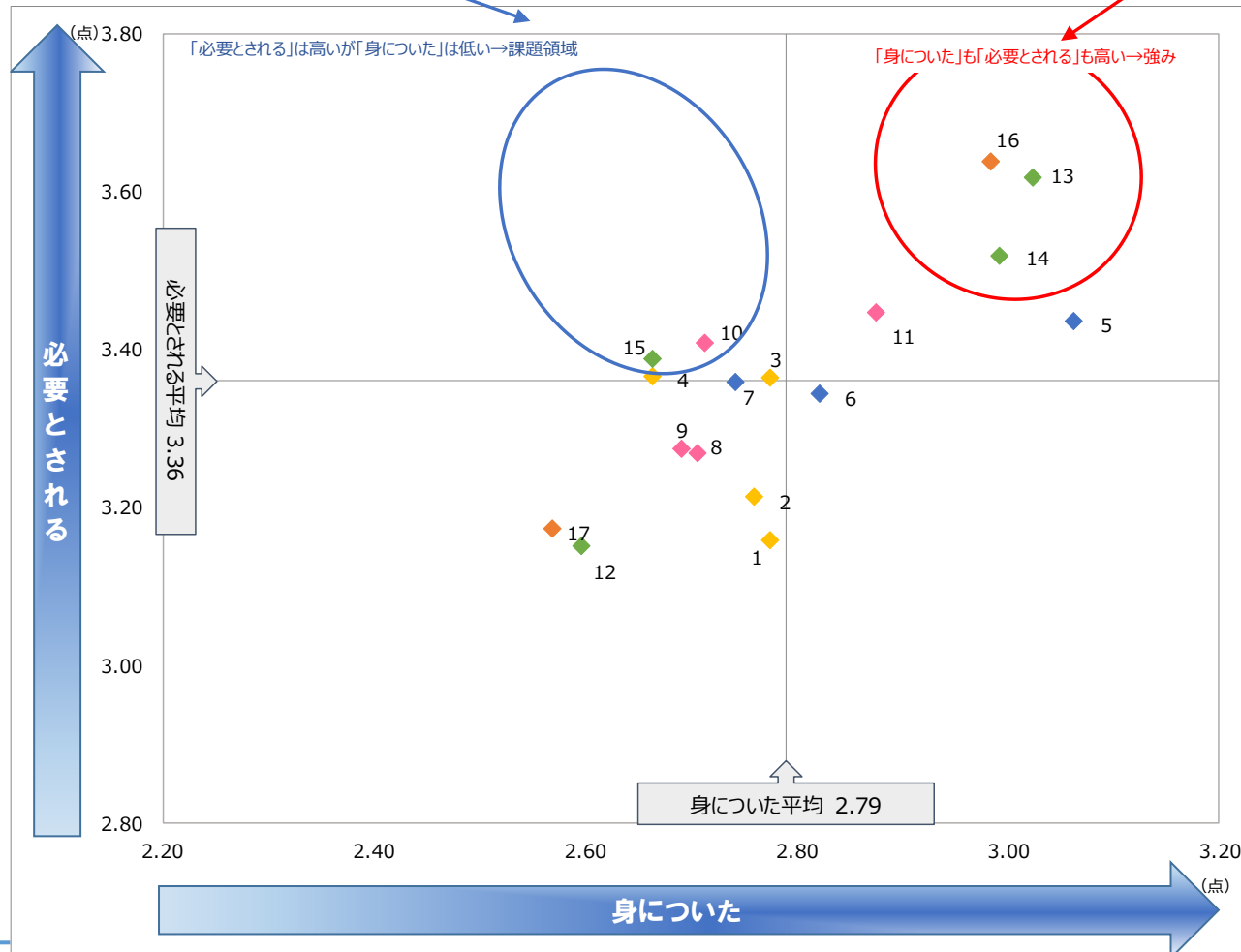
# ポートフォリオ分析 修得度×必要度 (全体)

## 【課題領域の項目】

- ✓ 10. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力
- ✓ 15. 場を読み、組織を動かす能力

## 【強みの項目】

- ✓ 13. 広い視野を持ち人々と連携・協働する態度・能力
- ✓ 14. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力
- ✓ 16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力



N=135

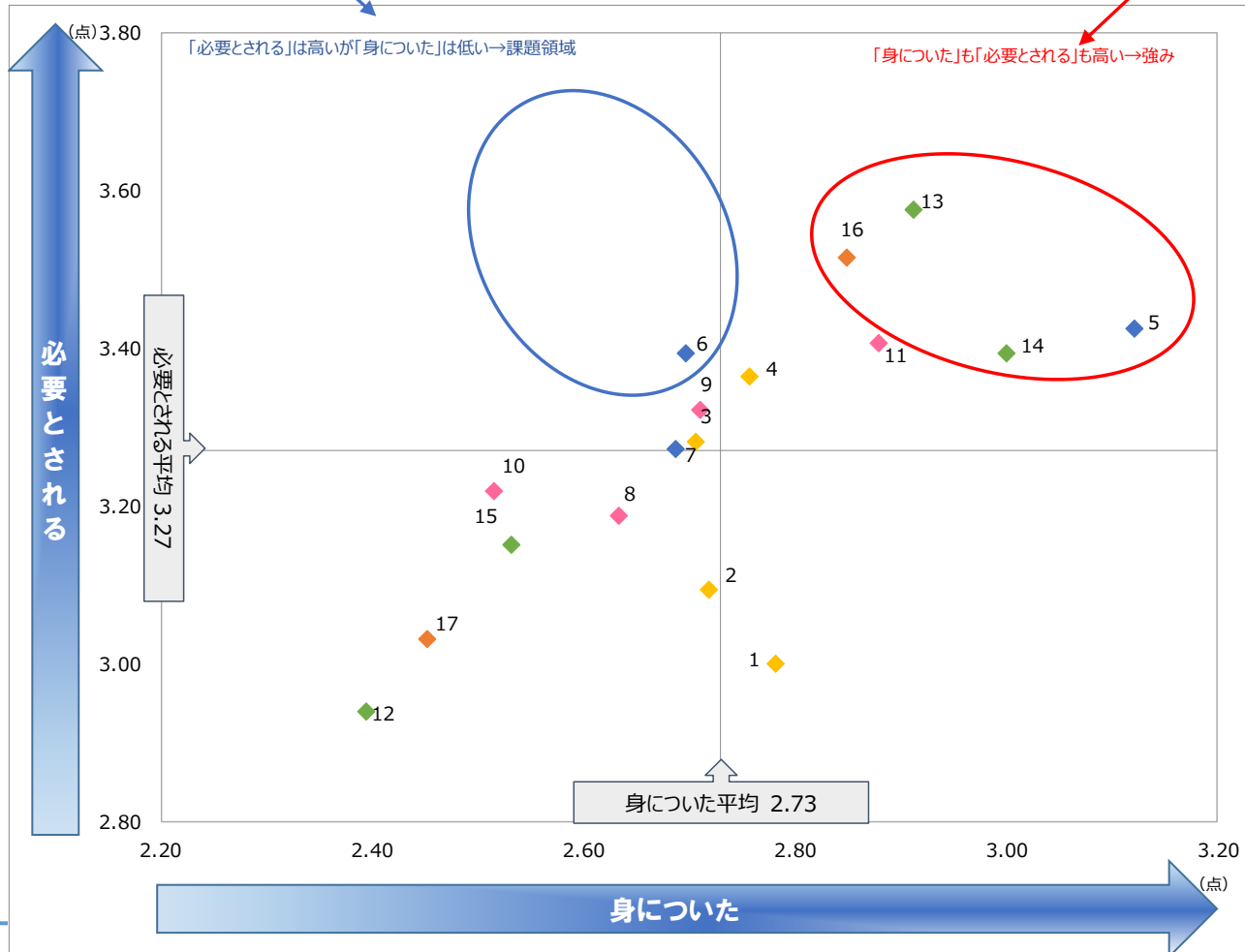
# ポートフォリオ分析 修得度×必要度 (2013年度卒)

## 【課題領域の項目】

- ✓ 6. 様々な角度から情報を分析し、課題の原因を明らかにする能力

## 【強みの項目】

- ✓ 5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力
- ✓ 13. 広い視野を持ち人々と連携・協働する態度・能力
- ✓ 14. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力
- ✓ 16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力



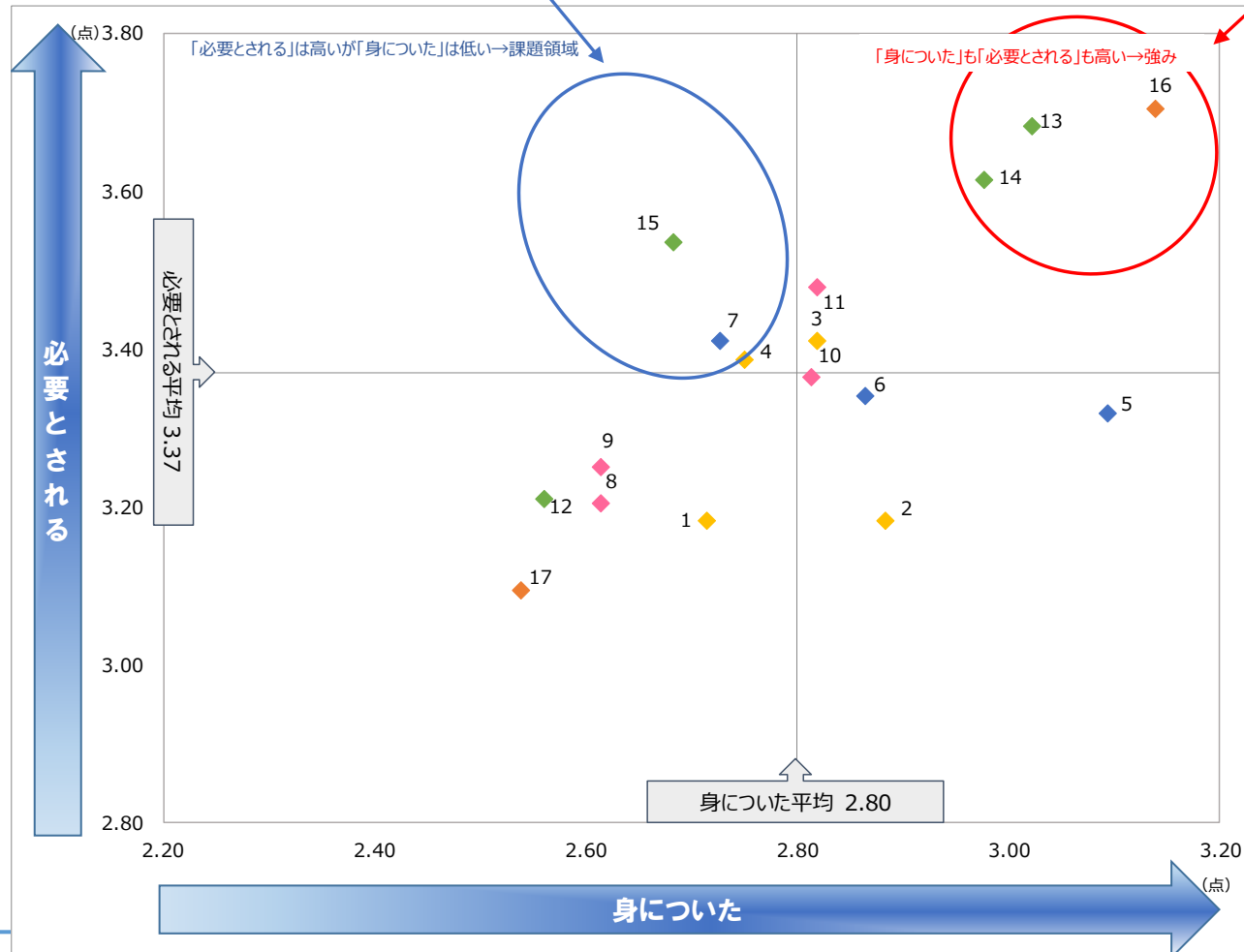
# ポートフォリオ分析 修得度×必要度 (2015年度卒)

## 【課題領域の項目】

- ✓ 7. 課題解決のための適切な計画を立てる能力
- ✓ 15. 場を読み、組織を動かす能力

## 【強みの項目】

- ✓ 13. 広い視野を持ち人々と連携・協働する態度・能力
- ✓ 14. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力
- ✓ 16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力



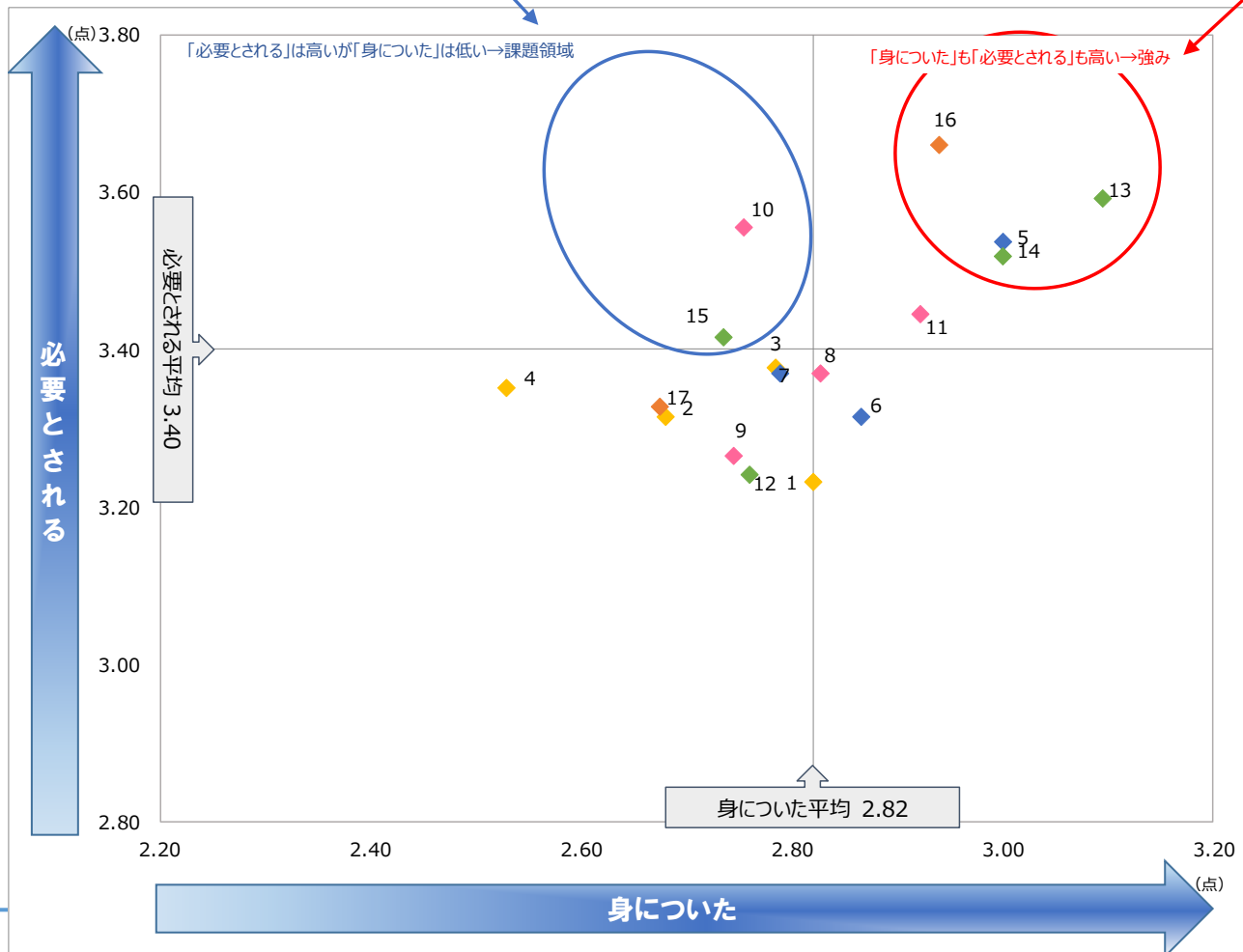
# ポートフォリオ分析 修得度×必要度 (2017年度卒)

## 【課題領域の項目】

- ✓ 10. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力
- ✓ 15. 場を読み、組織を動かす能力

## 【強みの項目】

- ✓ 5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力
- ✓ 13. 広い視野を持ち人々と連携・協働する態度・能力
- ✓ 14. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力
- ✓ 16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力



N=55

---

## 2. 評価項目別分析

# 評価項目の高評価・低評価グループの定義

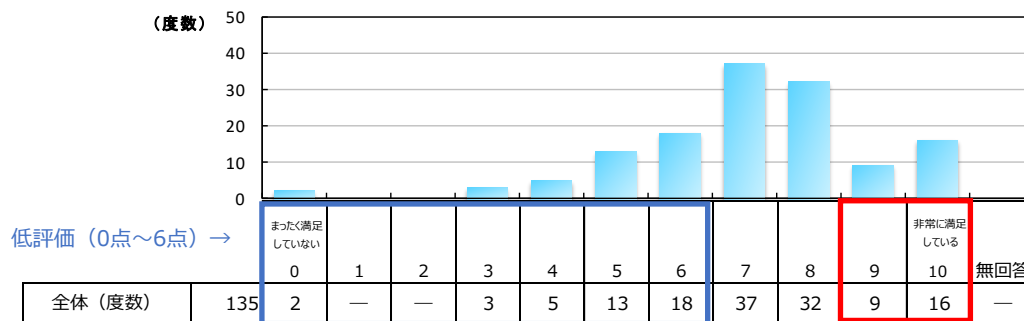
✓ 「Q11.学びの満足度」「Q12.卒業満足度」「Q13.大学推奨度」の3項目について、0点から10点の11段階評価を聴取している。

✓ それぞれの設問について、0点から10点の度数分布を確認し、上位30%、下位30%にもっとも近いグルーピングを行った。(右図参照)

✓ 「Q11.学びの満足度」「Q12.卒業満足度」は9点～10点を「高評価」グループ、0点から6点を「低評価」グループとした。

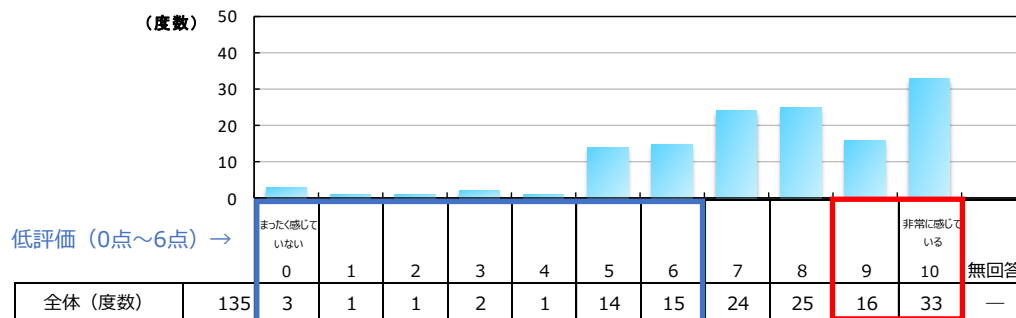
✓ 「Q13.大学推奨度」は8点～10点を「高評価」グループ、0点から4点を「低評価」グループとした。

Q11. 大学時代を振り返って十文字学園女子大学での「学びの満足度」はどれくらいだったと感じますか？（単一回答）



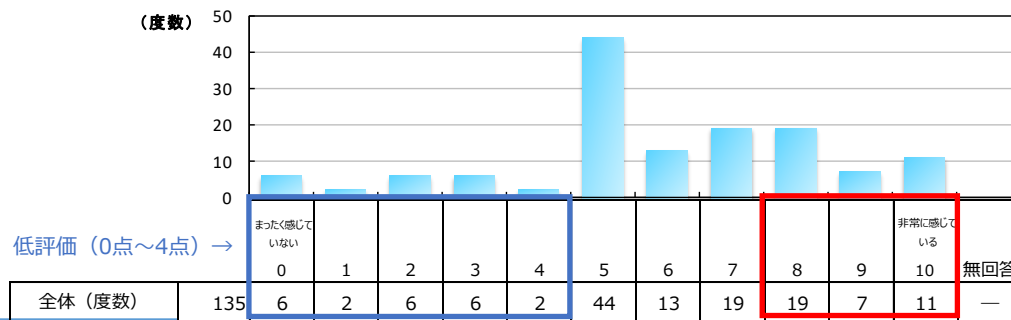
← 高評価 (9点～10点)

Q12. 現時点で、「十文字学園女子大学を卒業して良かった」と、どれくらい感じていますか？（単一回答）



← 高評価 (9点～10点)

Q13. あなたは十文字学園女子大学に入学することを、家族や親しい友人・知人にすすめたいと思いますか？（単一回答）

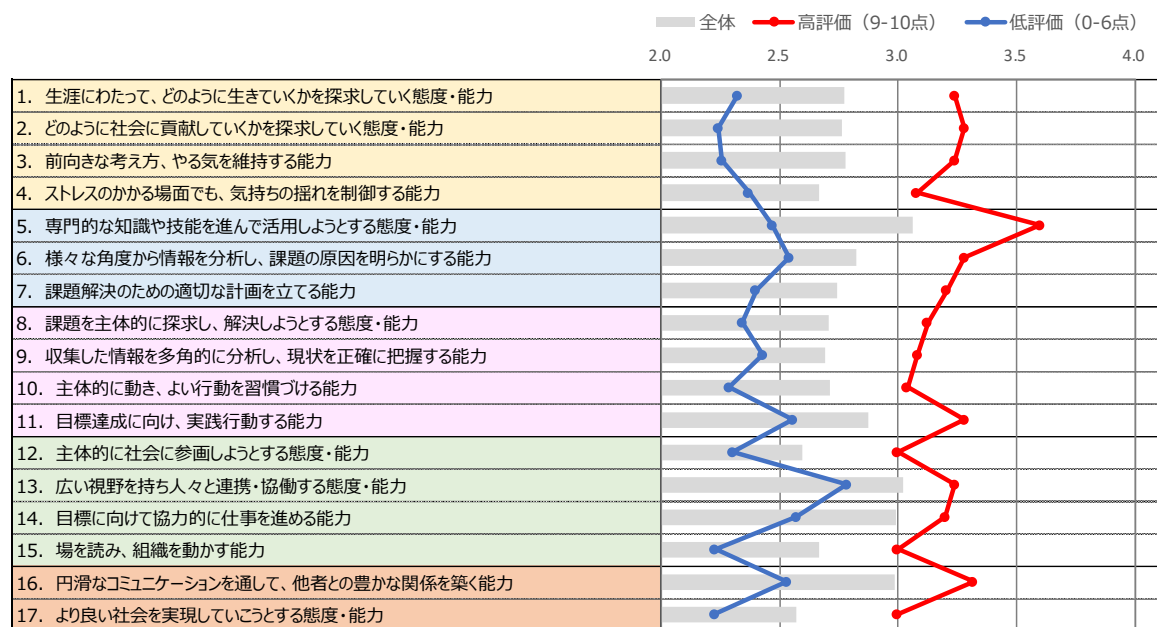


← 高評価 (8点～10点)

# Q11. 学びの満足度別修得度比較

- ✓ 「学びの満足度」の評価が高いグループと低いグループとで、修得度の比較をおこなった。
- ✓ 総じて、高評価のほうが低評価よりも修得度が高い。特に「5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力」は高評価の修得度が突出して高く、低評価との差が大きい。次いで、高評価と低評価の差が大きいのは「2. どのように社会に貢献していくかを探求していく態度・能力」、  
「2. どのように社会に貢献していくかを探求していく態度・能力」、「3. 前向きな考え方、やる気を維持する能力」と続く。これら能力が身につくと、学びの満足度が高くなるといえる。

■「Q11. 学びの満足度」別（高評価／低評価別）修得度比較



上位3項目  
下位3項目

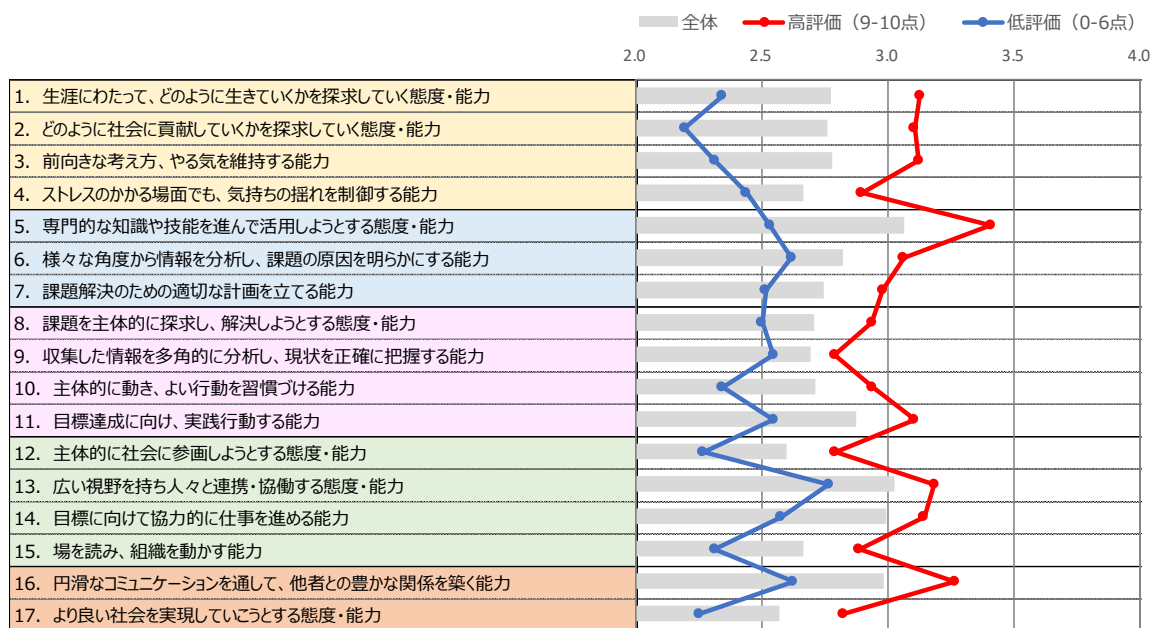
全体	平均値		
	高評価 (9-10点)	低評価 (0-6点)	差 (絶対値)
N=135	N=25	N=41	
2.77	3.24	2.32	0.92
2.76	3.28	2.24	1.04
2.78	3.24	2.26	0.98
2.66	3.08	2.37	0.71
3.06	3.60	2.47	1.13
2.82	3.28	2.54	0.74
2.74	3.21	2.40	0.81
2.71	3.13	2.34	0.78
2.69	3.08	2.43	0.65
2.71	3.04	2.29	0.75
2.88	3.28	2.56	0.72
2.60	3.00	2.30	0.70
3.02	3.24	2.78	0.46
2.99	3.20	2.57	0.63
2.66	3.00	2.23	0.77
2.98	3.32	2.53	0.79
2.57	3.00	2.23	0.77



# Q12.卒業満足度別修得度比較

- ✓ 「卒業満足度」の評価が高いグループと低いグループとで、修得度の比較をおこなった。
- ✓ 学びの満足度と同様、総じて高評価のほうが低評価よりも修得度が高い。特に「 5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力」は高評価の修得度が突出して高く、低評価との差も大きい。ほか、高評価と低評価の差が大きい項目は「 2. どのように社会に貢献していくかを探求していく態度・能力」、「 3. 前向きな考え方、やる気を維持する能力」と続く。これら能力が身につくと、卒業満足度が高くなるといえる。

■「Q12. 卒業満足度」別（高評価／低評価別）修得度比較



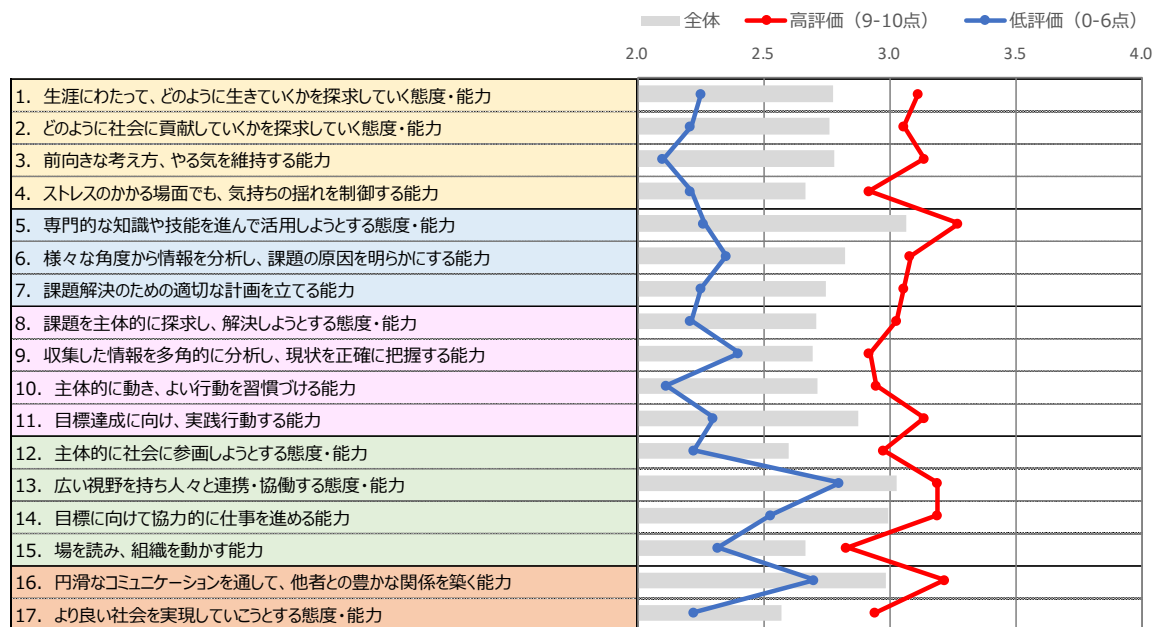
上位3項目  
下位3項目

平均値			
全体	高評価 (9-10点)	低評価 (0-6点)	差 (絶対値)
N=135	N=49	N=37	
2.77	3.13	2.34	0.78
2.76	3.10	2.19	0.91
2.78	3.12	2.31	0.81
2.66	2.90	2.44	0.46
3.06	3.41	2.53	0.88
2.82	3.06	2.62	0.44
2.74	2.98	2.52	0.46
2.71	2.94	2.50	0.44
2.69	2.79	2.55	0.24
2.71	2.94	2.34	0.60
2.88	3.10	2.55	0.56
2.60	2.79	2.27	0.52
3.02	3.18	2.76	0.42
2.99	3.14	2.58	0.57
2.66	2.89	2.31	0.57
2.98	3.27	2.63	0.64
2.57	2.82	2.25	0.57

# Q13. 大学推奨度別修得度比較

- ✓ 「大学推奨度」の評価が高いグループと低いグループとで、修得度の比較をおこなった。
- ✓ 総じて高評価のほうが低評価よりも修得度が高い。特に低評価は「2. どのように社会に貢献していくかを探求していく態度・能力」と「10. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力」の低さが目立つ。
- ✓ 「高評価と低評価の差がもっとも大きいのは「5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力」、次いで「3. 前向きな考え方、やる気を維持する能力」、「1. 生涯にわたって、どのように生きていくかを探求していく態度・能力」と続く。これら能力が身につくと、大学推奨度が高くなるといえる。

■「Q13. 大学推奨度」別（高評価／低評価別）修得度比較



上位3項目

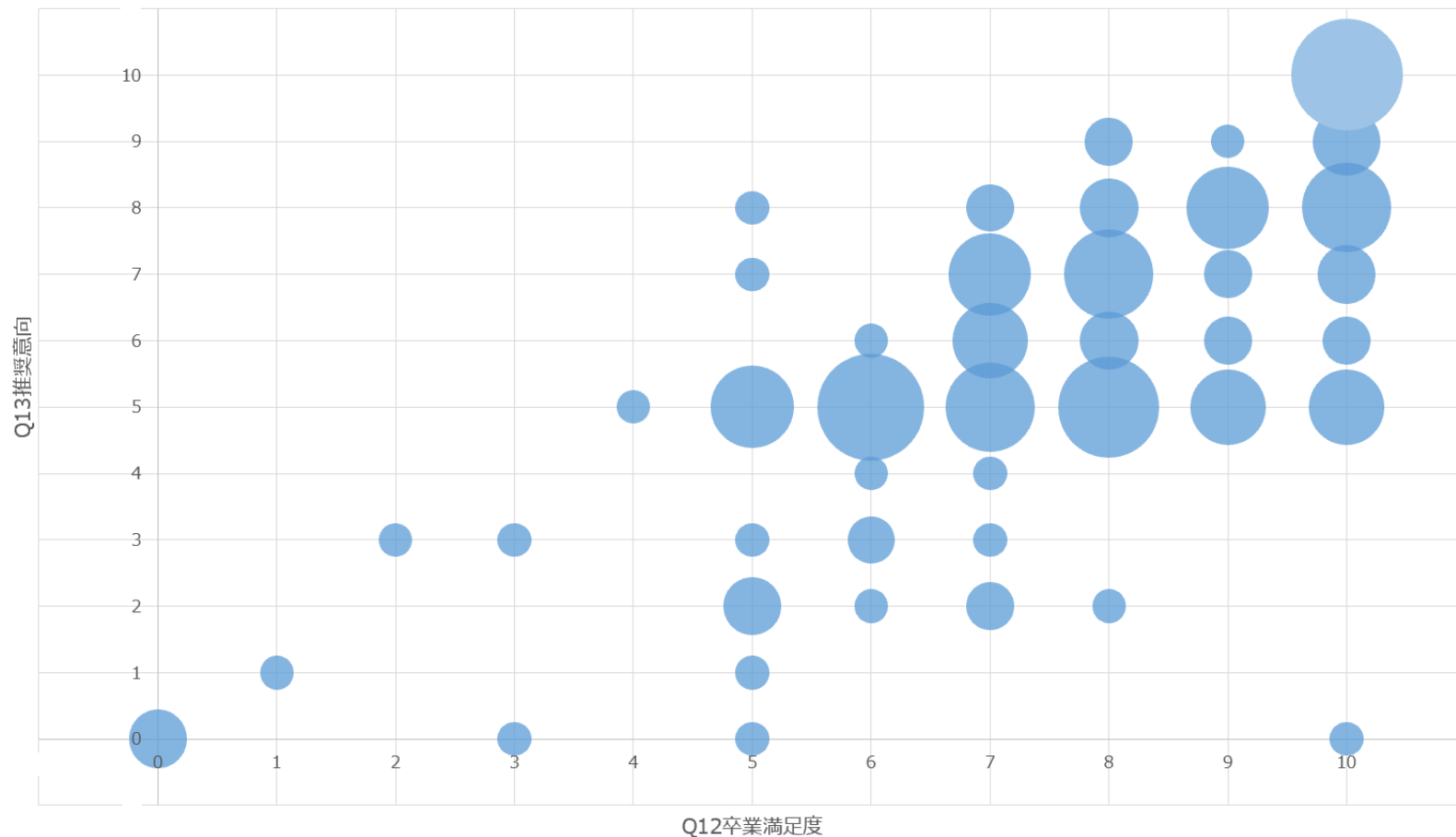
下位3項目

全体	平均値		
	高評価 (9-10点)	低評価 (0-6点)	差 (絶対値)
N=135	N=37	N=22	
2.77	3.11	2.25	0.86
2.76	3.06	2.21	0.85
2.78	3.14	2.10	1.04
2.66	2.92	2.21	0.71
3.06	3.27	2.26	1.01
2.82	3.08	2.35	0.73
2.74	3.05	2.25	0.80
2.71	3.03	2.21	0.82
2.69	2.92	2.40	0.52
2.71	2.95	2.11	0.83
2.88	3.14	2.30	0.84
2.60	2.97	2.22	0.75
3.02	3.19	2.80	0.39
2.99	3.19	2.53	0.66
2.66	2.83	2.32	0.51
2.98	3.22	2.70	0.52
2.57	2.94	2.22	0.72

## 【参考】卒業満足度×推奨意向

バブルチャートにてQ12の卒業満足とQ13の推奨意向のプロットをみると、卒業満足度も推奨意向も高評価が多いことに加えて、卒業意向が中程度で推奨度が中程度も多い傾向が見られる。

Q12卒業満足度×Q13推奨意向



# 相関分析について

●ここでは、「Q11.学びの満足度」「Q12.卒業満足度」「Q13.大学推奨度」の3つの評価と、17項目の各能力の修得度との間に関連があるのかを、相関分析によって明らかにする。

●分析には「Q11.学びの満足度」「Q12.卒業満足度」「Q13.大学推奨度」の3項目について、0点から10点の11段階評価の加重平均値と、各能力の修得度の加重平均値<sup>(\*)</sup>を使用した。

※相関係数とは

2群のデータの関連性を示す指標のことで、-1.0～1.0の範囲に値を取り、1に近いほど関連性が強いといえます。

一般的には**0.5以上で強い相関、0.2以上で弱い相関**があるとしています。

※有意確率とは

2群のデータの偏りが偶然生じる、たまたま得られたものであるという確率。0.05以下であれば5%有意とし、95%の確率で生じる確率ということになります。0.01以下であれば1%有意とし、99%の確率で生じる確率ということになります。

(\*) 加重平均値について

【評価項目】 0点：0点、1点：1点、2点：2点、3点：3点、4点：4点、5点：5点、6点：6点、7点：7点、8点：8点、9点：9点、10点：10点（無回答は除く）

【修得度】 よく当てはまる：4点、ある程度当てはまる：3点、あまり当てはまらない：2点、まったく当てはまらない：1点（わからない、無回答は除く）

# 相関分析

- ✓ 17項目すべての修得度と、3つの評価項目との間には、+0.2以上の有意な相関分析が見られる。全般的にこれら能力の修得度が高い卒業生ほど、各評価が高い傾向にある。
- ✓ 特に「3. 前向きな考え方、やる気を維持する能力」は3つの評価項目すべてとの間に+0.5以上の強い相関関係が見られる。この能力が身に付いた卒業生ほど、大学に対し総じて高い評価をしていることがわかる。
- ✓ 「1. 生涯にわたって、どのように生きていくかを探求していく態度・能力」「2. どのように社会に貢献していくかを探求していく態度・能力」「5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力」は、学びの満足度、卒業満足度との間に+0.5以上の強い相関関係が見られる。これら能力が大学生活で身についた卒業生ほど、学びや卒業の満足度が高い。

0.2以上 0.4未満	0.4以上 0.5未満	0.5以上
----------------	----------------	-------

## 相関係数

【全体】N=135 (ただし各設問無回答は除く)

\*\* 相関係数は1%水準で有意  
\* 相関係数は5%水準で有意

	相関関係		
	Q11. 学びの満足度	Q12. 卒業満足度	Q13. 本学推奨度
【修得度】1. 生涯にわたって、どのように生きていくかを探求していく態度・能力	0.54**	0.51**	0.46**
【修得度】2. どのように社会に貢献していくかを探求していく態度・能力	0.58**	0.56**	0.43**
【修得度】3. 前向きな考え方、やる気を維持する能力	0.53**	0.53**	0.5**
【修得度】4. ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力	0.39**	0.31**	0.31**
【修得度】5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力	0.57**	0.5**	0.39**
【修得度】6. 様々な角度から情報を分析し、課題の原因を明らかにする能力	0.47**	0.38**	0.36**
【修得度】7. 課題解決のための適切な計画を立てる能力	0.44**	0.36**	0.42**
【修得度】8. 課題を主体的に探求し、解決しようとする態度・能力	0.45**	0.34**	0.45**
【修得度】9. 収集した情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する能力	0.35**	0.25**	0.33**
【修得度】10. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力	0.41**	0.35**	0.36**
【修得度】11. 目標達成に向け、実践行動する能力	0.43**	0.41**	0.38**
【修得度】12. 主体的に社会に参画しようとする態度・能力	0.37**	0.37**	0.39**
【修得度】13. 広い視野を持ち人々と連携・協働する態度・能力	0.3**	0.34**	0.26**
【修得度】14. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力	0.42**	0.39**	0.33**
【修得度】15. 場を読み、組織を動かす能力	0.41**	0.37**	0.3**
【修得度】16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力	0.46**	0.45**	0.26**
【修得度】17. より良い社会を実現していこうとする態度・能力	0.41**	0.41**	0.42**

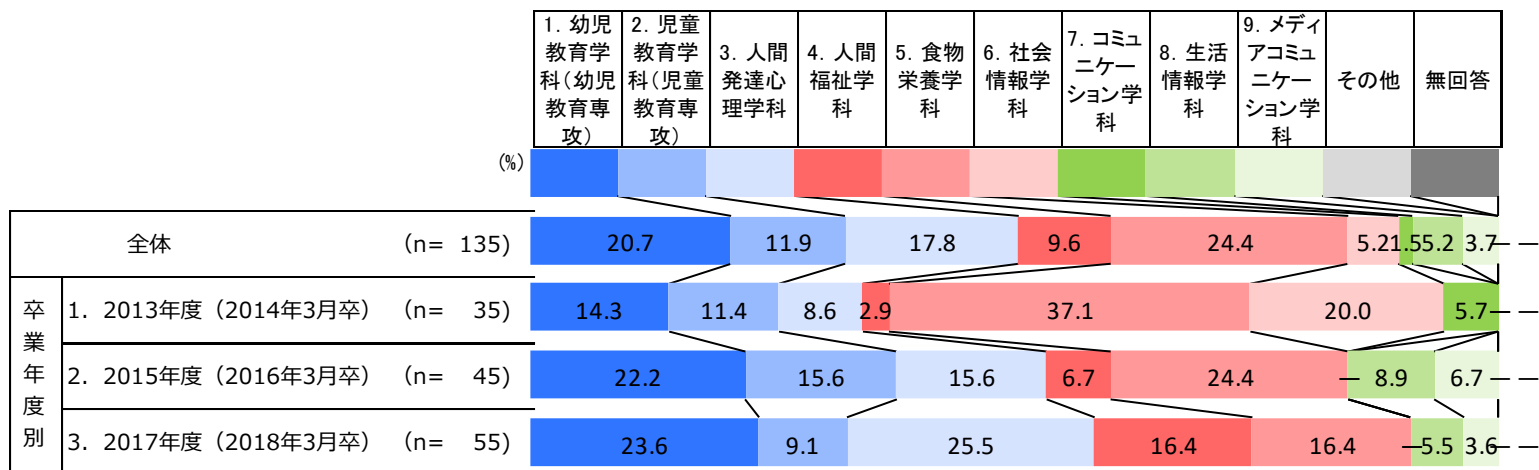
---

### 3. アンケート集計結果 (卒業年度別)

## Q2.卒業学科

- ✓ 食物栄養学科が24%で、もっとも多い。次いで「幼児教育学科（幼児教育専攻）」が21%、「人間発達心理学科」が18%、「児童教育学科（児童教育専攻）」が12%と続く。

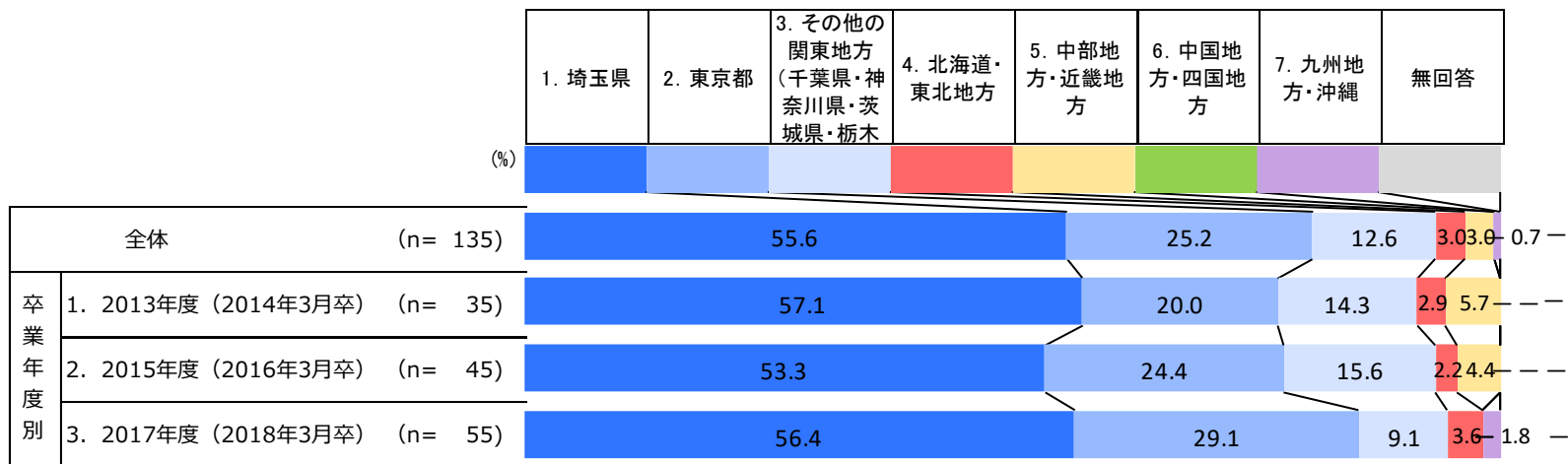
### ■ Q2. 卒業された学科（全体／単一回答）



# Q3.居住地

✓ 埼玉県が5割以上を占める。次いで東京都が2割強。

## ■ Q3. 現在お住まいの地域（全体／単一回答）

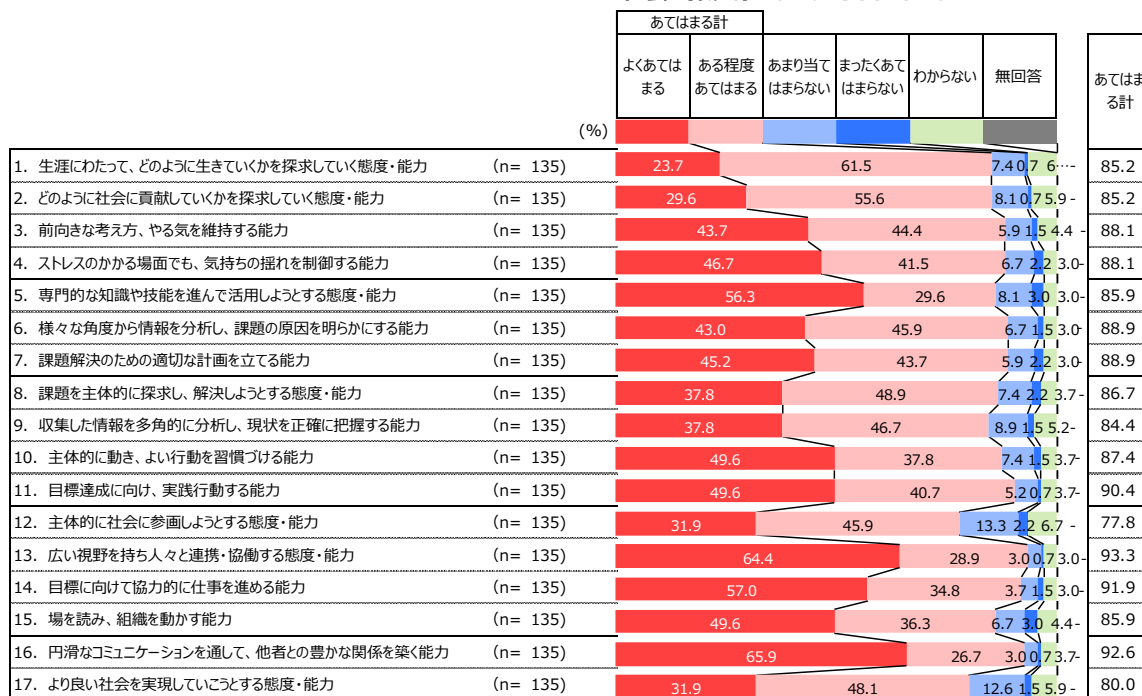




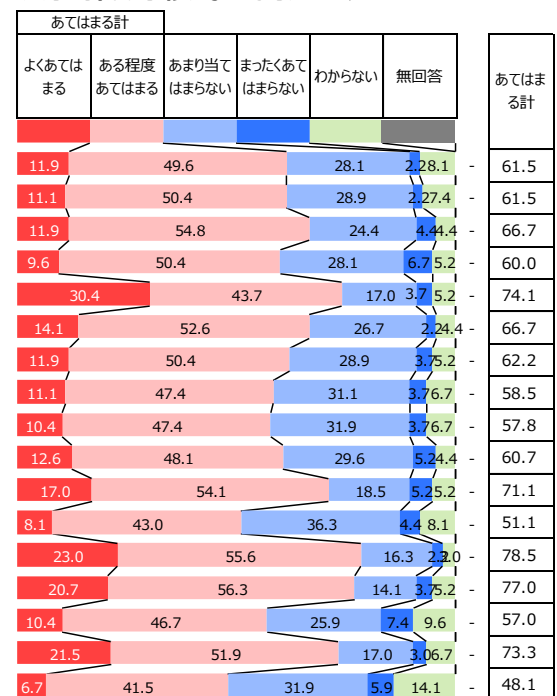
# Q4：必要度と修得度（全体）

- ✓ 必要度「よくあてはまる」がもっとも高いのは、課題発見力の「16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力（66%）」であった。
- ✓ 修得度「よくあてはまる」がもっとも高いのは、情報収集力の「5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力（30%）」であった。
- ✓ 全般的に、必要度と比べて修得度のほうが「よくあてはまる」が低く、「あまりあてはまらない」が高い。

社会（職場）で必要とされている



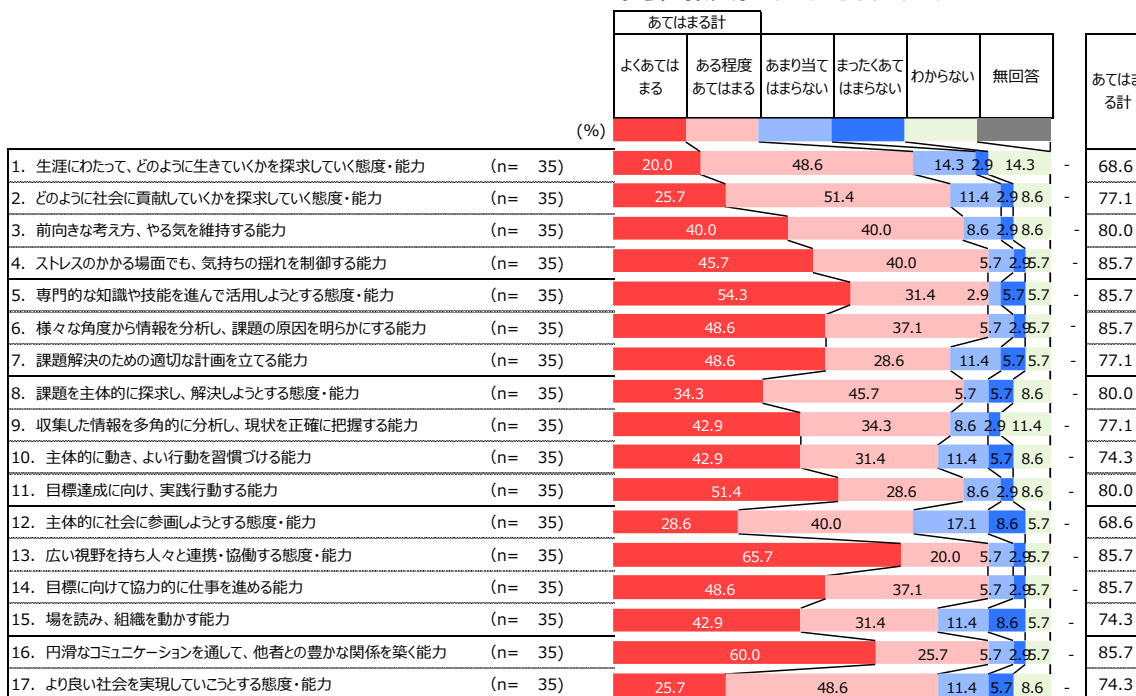
大学時代の学修によって身についた



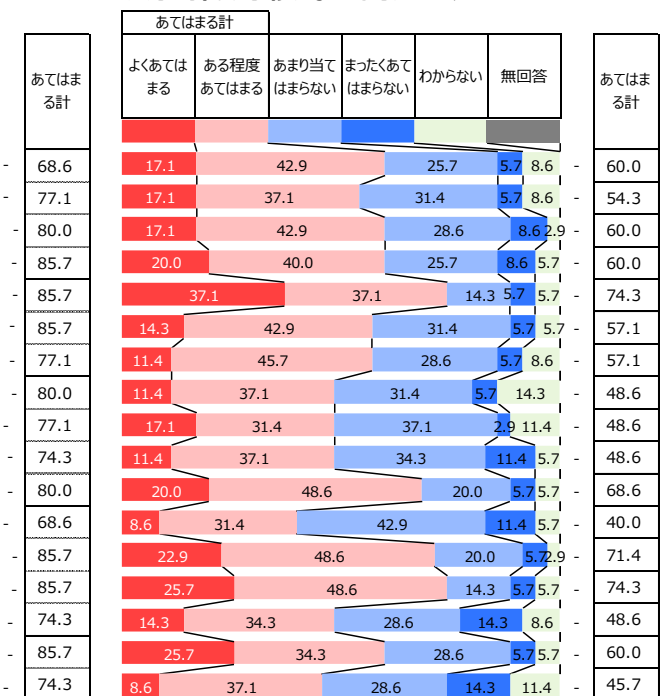
# Q4：必要度と修得度（2013年度卒）

- ✓ 必要度「よくあてはまる」がもっとも高いのは、課題発見力の「13. 広い視野を持ち人々と連携・協働する態度・能力（66%）」であった。
- ✓ 修得度「よくあてはまる」がもっとも高いのは、情報収集力の「5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力（37%）」であった。
- ✓ 全般的に、必要度と比べて修得度のほうが「よくあてはまる」が低く、「あまりあてはまらない」が高い。

社会（職場）で必要とされている



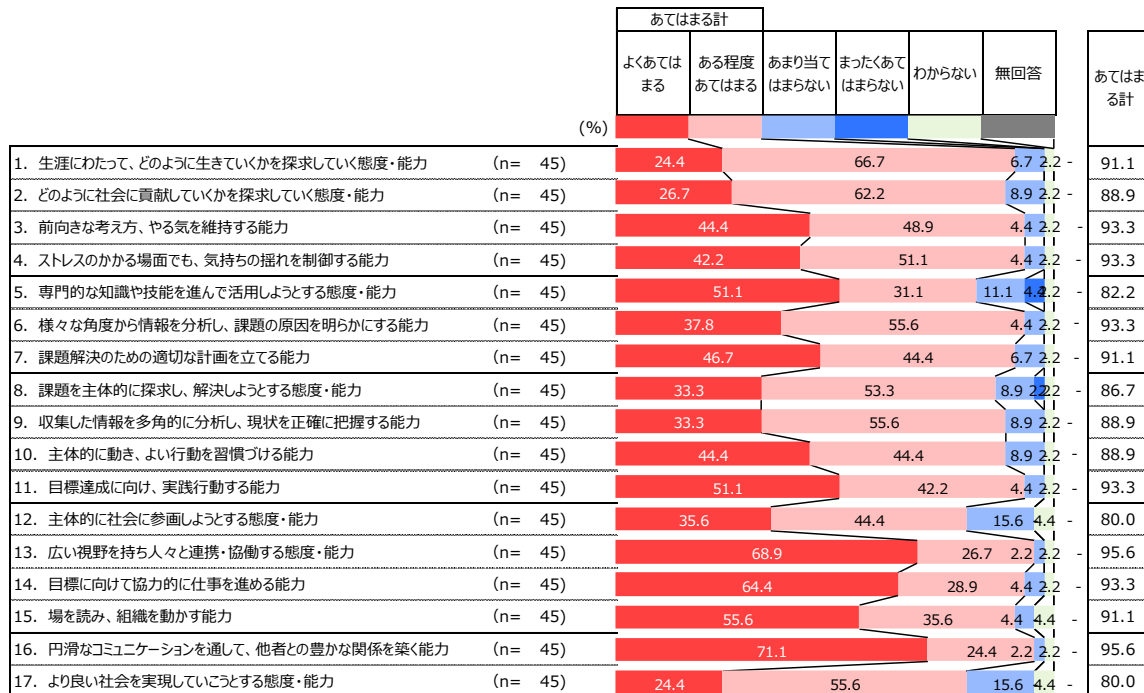
大学時代の学修によって身についた



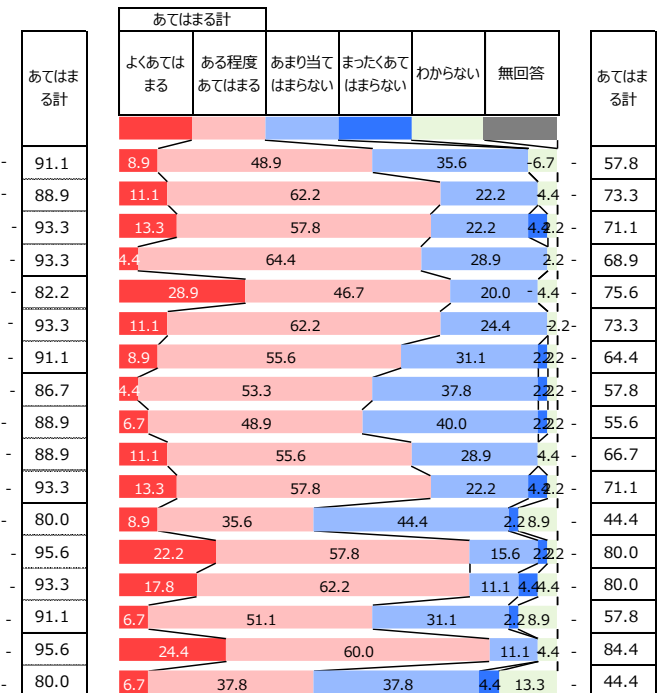
# Q4：必要度と修得度（2015年度卒）

- ✓ 必要度「よくあてはまる」がもっとも高いのは、課題発見力の「16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力（71%）」であった。
- ✓ 修得度「よくあてはまる」がもっとも高いのは、情報収集力の「5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力（29%）」であった。
- ✓ 全般的に、必要度と比べて修得度のほうが「よくあてはまる」の水準が低く、「あまりあてはまらない」が高い。

社会（職場）で必要とされている



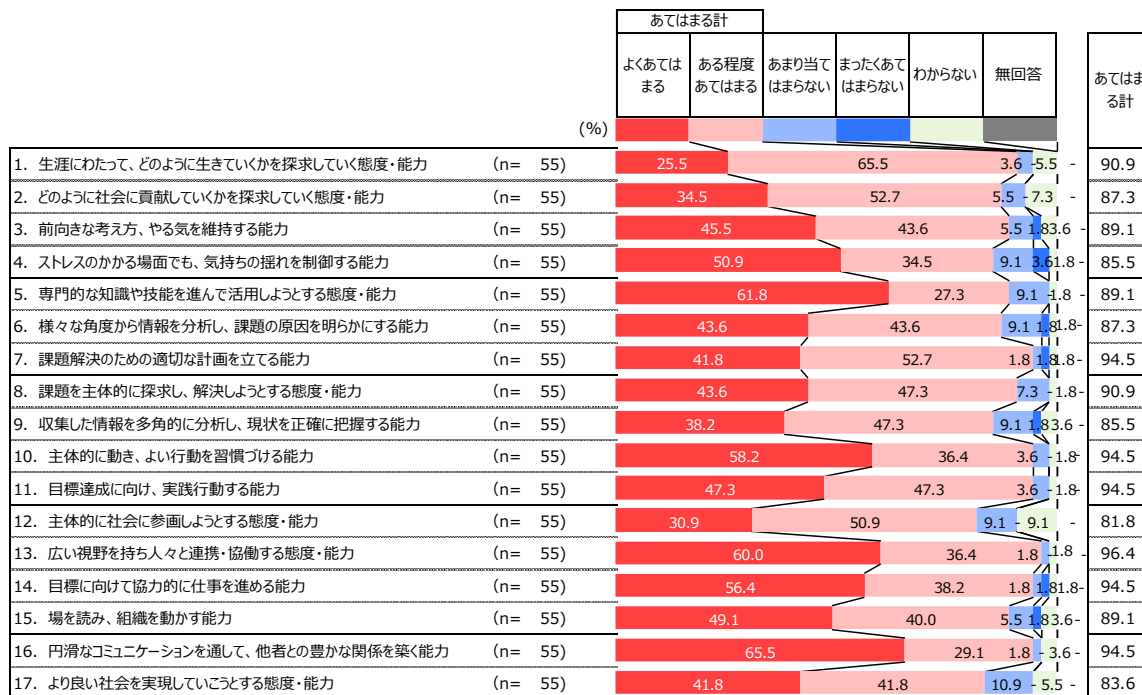
大学時代の学修によって身についた



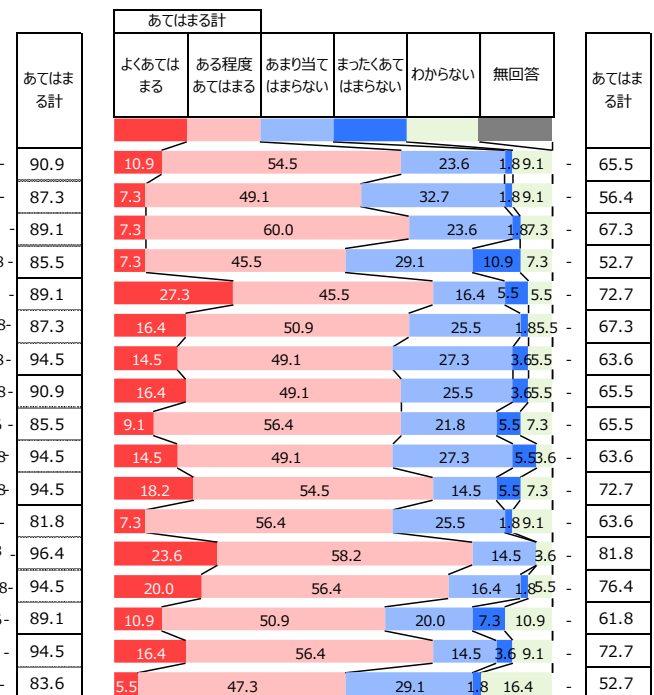
# Q4：必要度と修得度（2017年度卒）

- ✓ 必要度「よくあてはまる」がもっとも高いのは、課題発見力の「16. 円滑なコミュニケーションを通して、他者との豊かな関係を築く能力（66%）」であった。
- ✓ 修得度「よくあてはまる」がもっとも高いのは、情報収集力の「5. 専門的な知識や技能を進んで活用しようとする態度・能力（27%）」であった。
- ✓ 全般的に、必要度と比べて修得度のほうが「よくあてはまる」が低く、「あまりあてはまらない」が高い。

社会（職場）で必要とされている



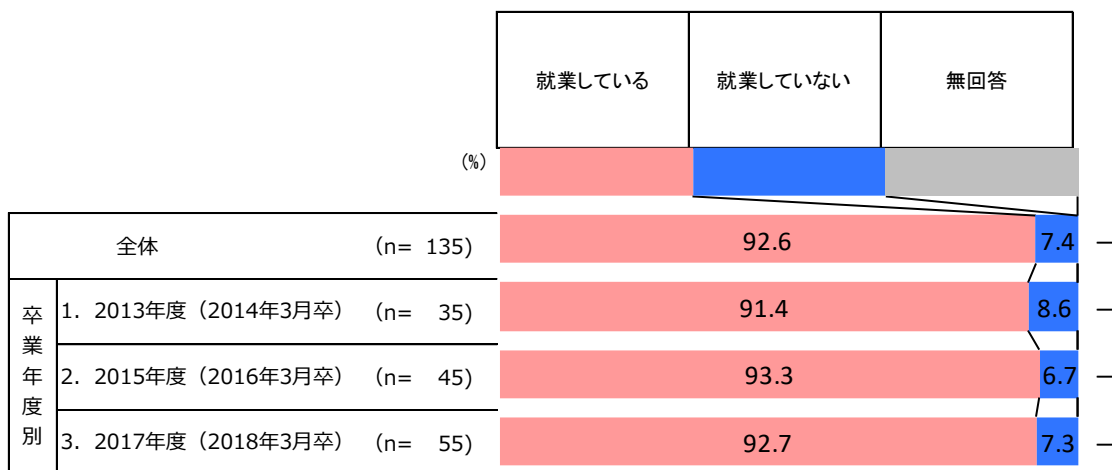
大学時代の学修によって身についた



# Q5：就業状況

- ✓ 卒業年度に関わらず、「就業している」が9割以上を占める。

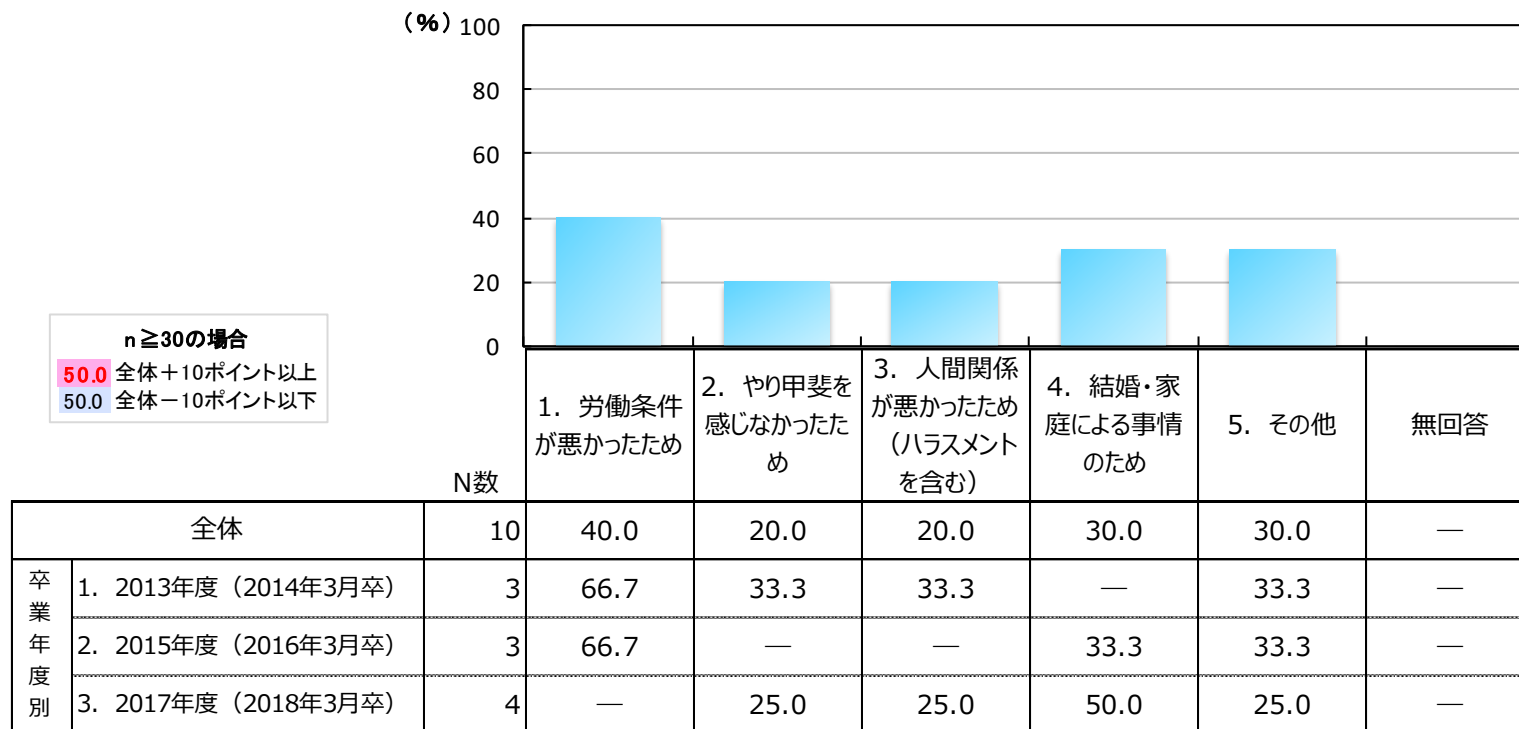
## ■ Q5. 現在就業していますか。(雇用形態は問いません) (全体/単一回答)



# Q5S1：卒業時の就業先を退職した理由

✓ 卒業時の就業先を退職した理由（複数回答）のトップは「労働条件が悪かったため」であった。

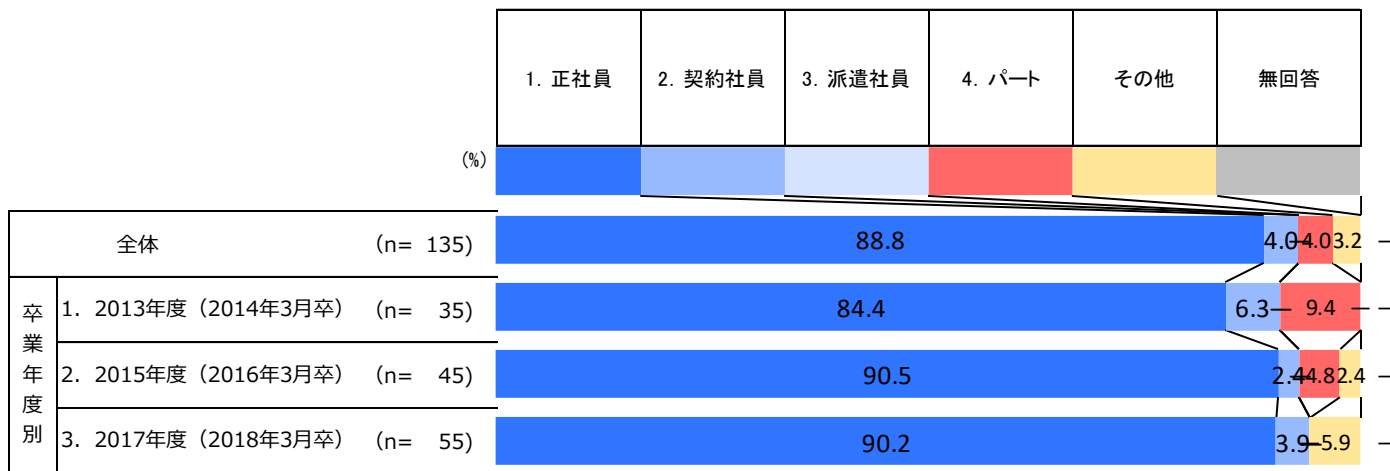
Q5S1. 退職理由（卒業時に就職したが現在は就業していない人）（複数回答）



# Q6：現在の雇用形態

- ✓ 「正社員」が9割程度を占める。
- ✓ 2017年度卒は「パート」は少ないが、2015年度卒は5%、2017年度卒では9%と、卒業後時間が経つにつれて増加する傾向。

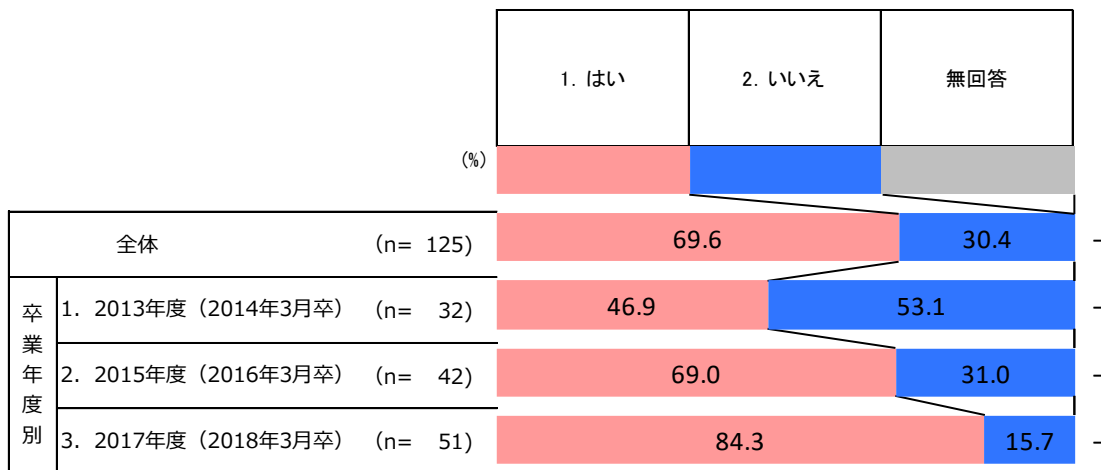
## ■ Q6. 現在の勤務先での雇用形態（全体／単一回答）



# Q7：現在の勤務先

- ✓ 2017年度卒は卒業時と同じ勤務先（転職退職経験なし）が8割以上を占めるが、2015年度卒では7割、2013年度卒では5割弱にまで低下する。

## ■ Q7. 現在の勤務先は卒業時と同じですか？（現在就業中の者／単一回答）

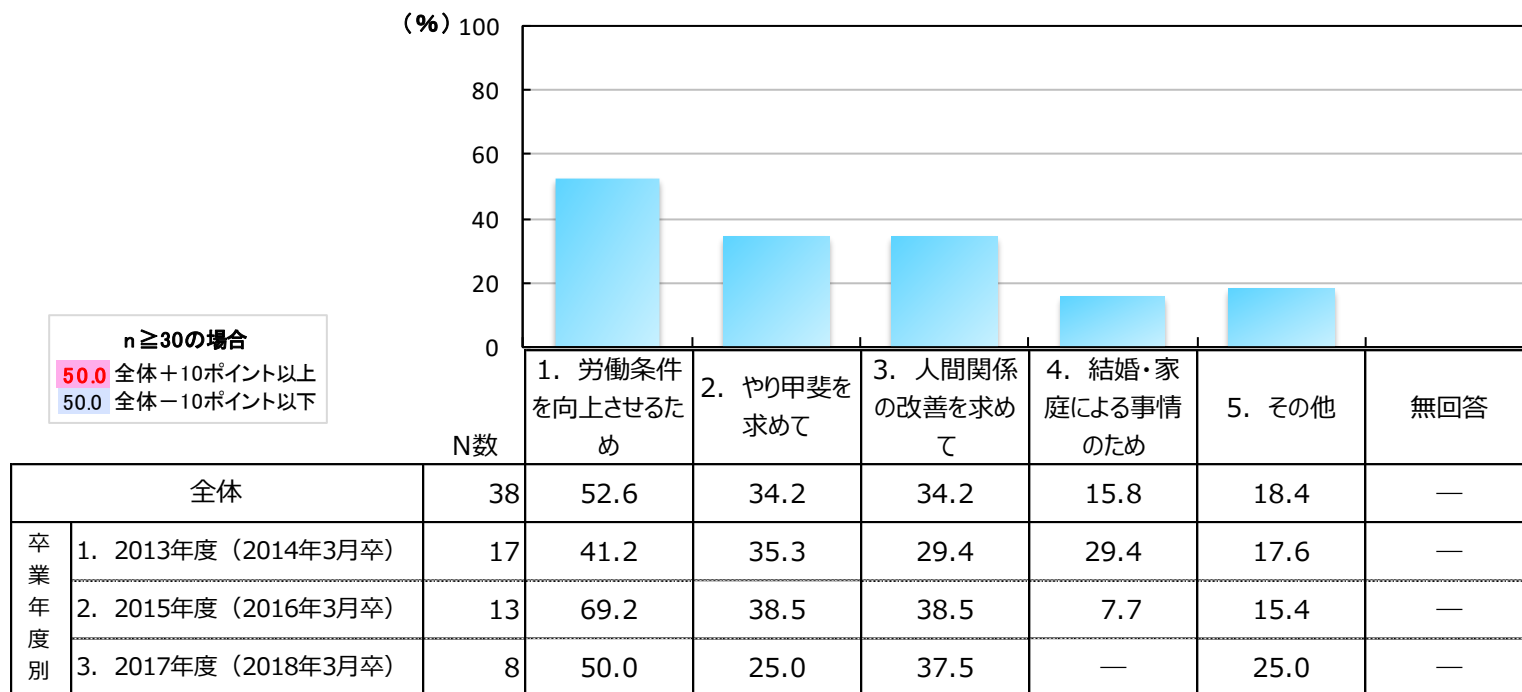




# Q7S1：転職理由

- ✓ 卒業時の就業先から転職した人の転職理由でもっとも多かったのは「労働条件を向上させるため」であった。
- ✓ 2013年度卒では「結婚・家庭による事情のため」が3割と、2017年度卒、2015年度卒と比べて多い。

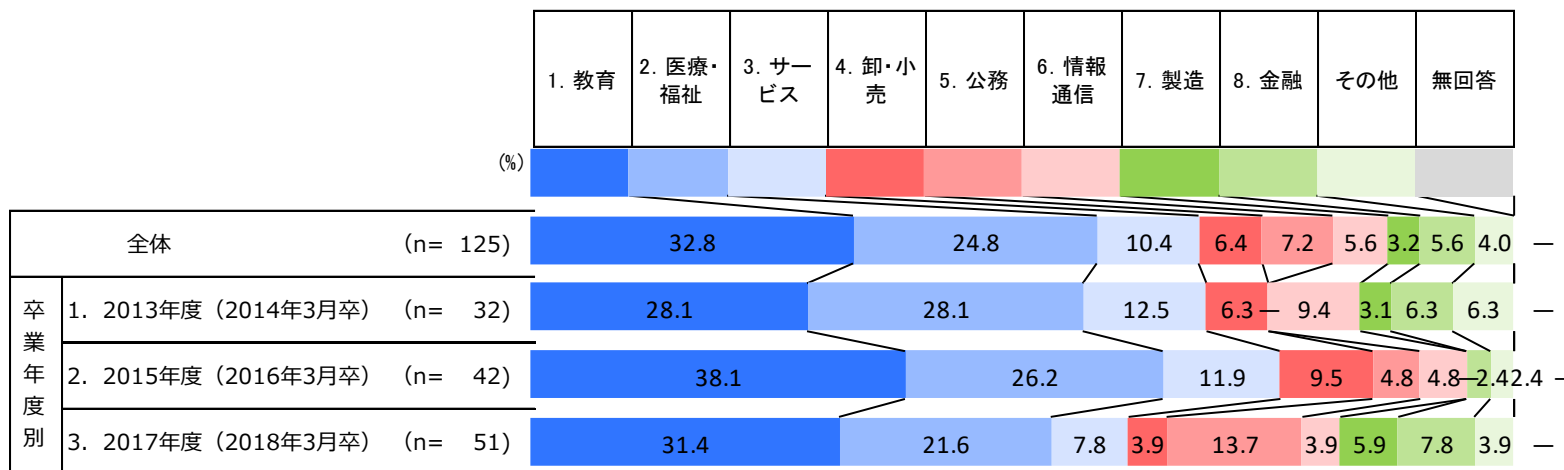
Q7S1. 転職理由（卒業時とは違う勤務先で就業している人）（複数回答）



# Q8：勤務先の業種

- ✓ 「教育」と「医療・福祉」で5割～6割を占める。
- ✓ 2017年度は「公務」が14%と、2013年度卒（なし）、2015年度卒（5%）と比べて高い。

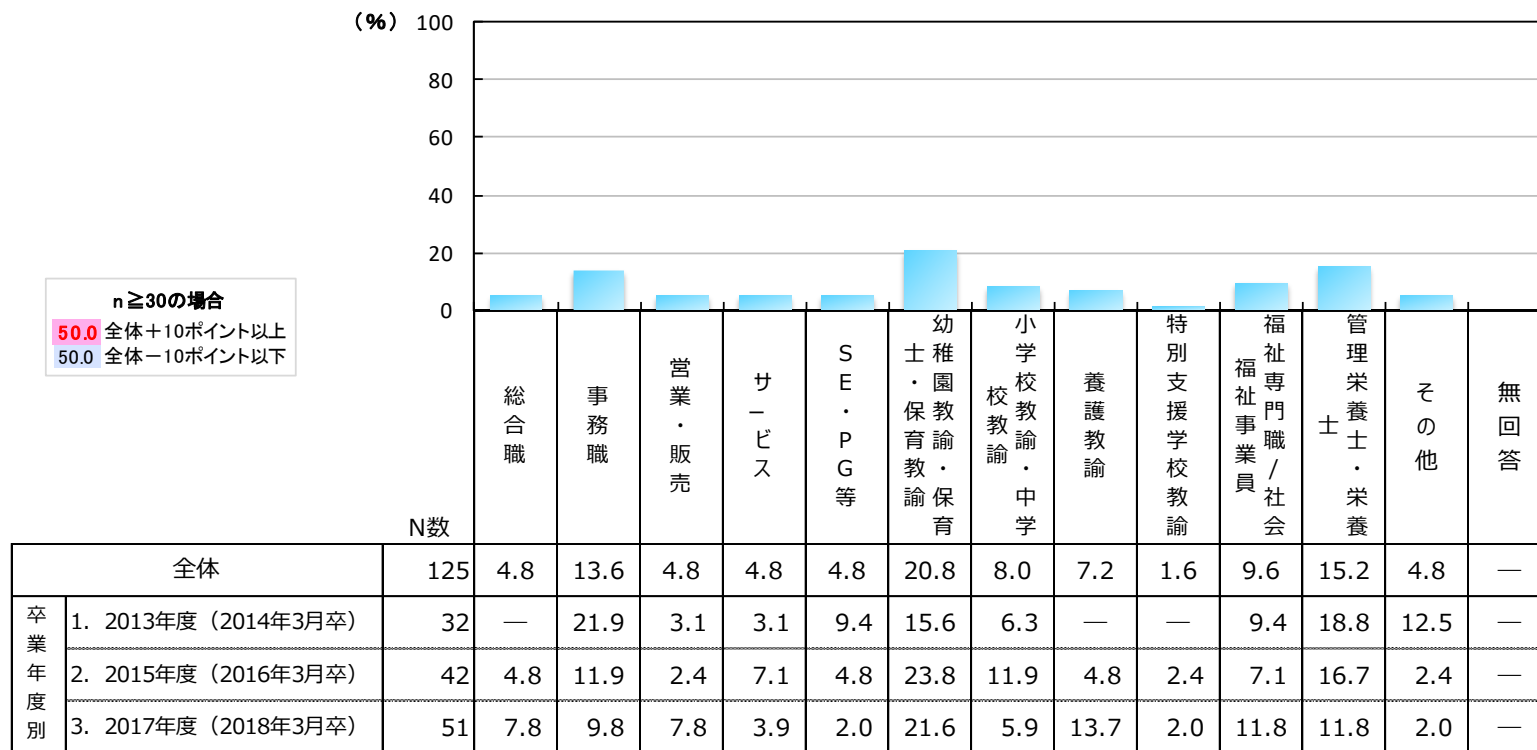
■ Q8. 現在の勤務先の業種(産業別) (現在就業中の人/単一回答)



# Q9：勤務先の職種

- ✓ 現在の職種でもっとも多いのは「幼稚園教諭・保育士・保育教諭」で、2割程度を占める。次いで「管理栄養士・栄養士」が15%、事務職が14%と続く。

Q9. 現在の勤務先での職種（現在就業している人）（単一回答）

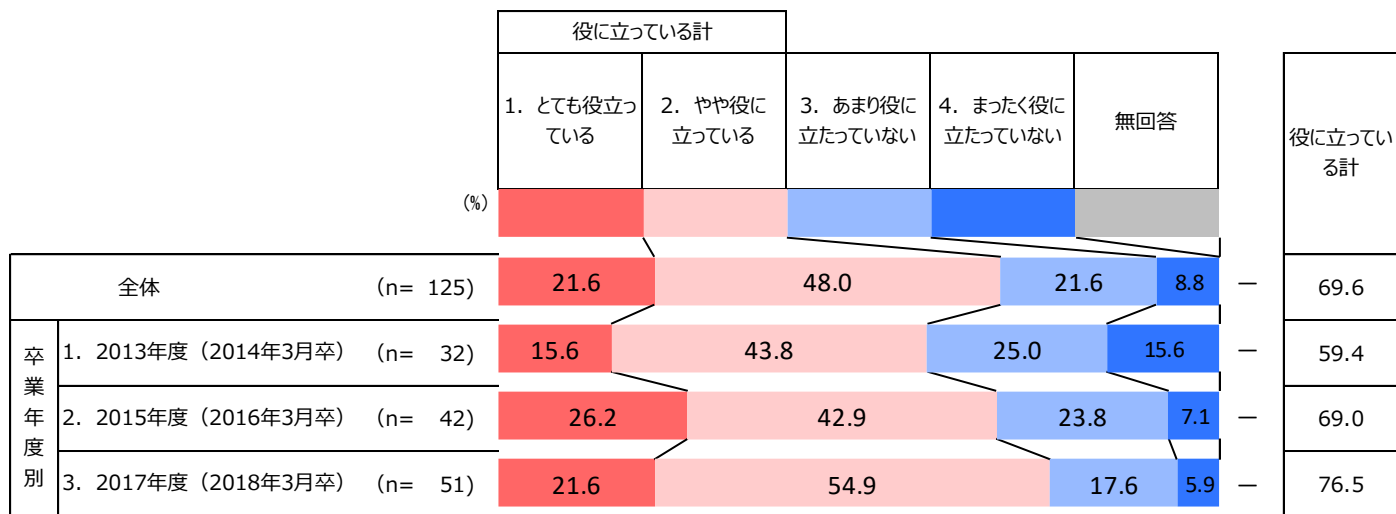


n ≥ 30の場合  
 50.0 全体+10ポイント以上  
 50.0 全体-10ポイント以下

# Q10：就職支援やキャリア講座の役立ち度

- ✓ 全体で見ると、「役に立っている計（とても役に立っている+やや役に立っている）」は7割程度。
- ✓ 「役に立っている計」を卒業年度別にみると、2013年度卒は6割、2015年度卒は7割、2017年度卒は8割で、卒業年度が若いほど役立ち度が高くなっている。

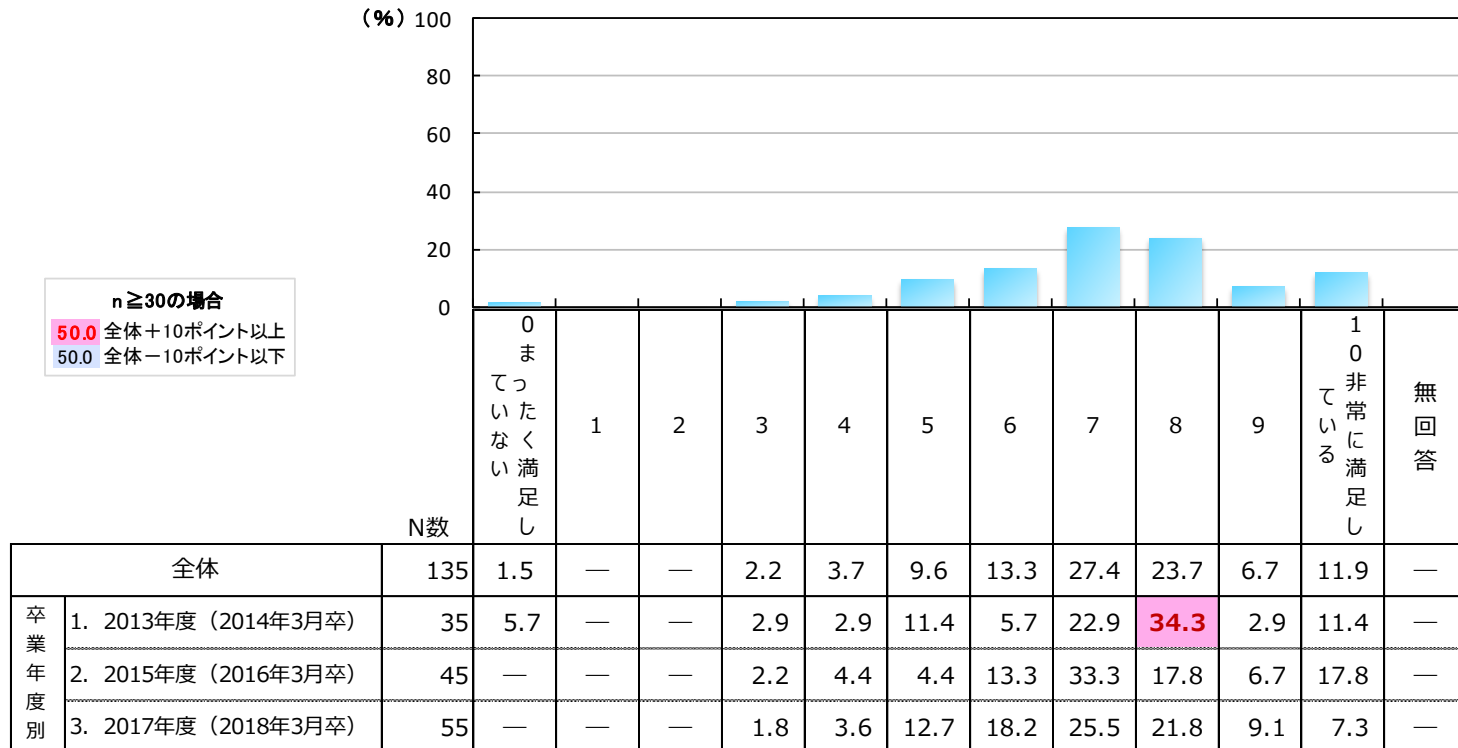
## ■ Q10. 大学時代の就職支援やキャリア講座で学んだ事は今の仕事に役立っていますか？（現在就業中の人／複数回答）



# Q11：学びの満足度

- ✓ 「学びの満足度」11段階評価のボリュームゾーンは「7（27%）」、次いで「8（24%）」で、合わせて約半数を占めている。

Q11. 大学時代を振り返って十文字学園女子大学での「学びの満足度」はどれくらいだったと感じますか？（単一回答）

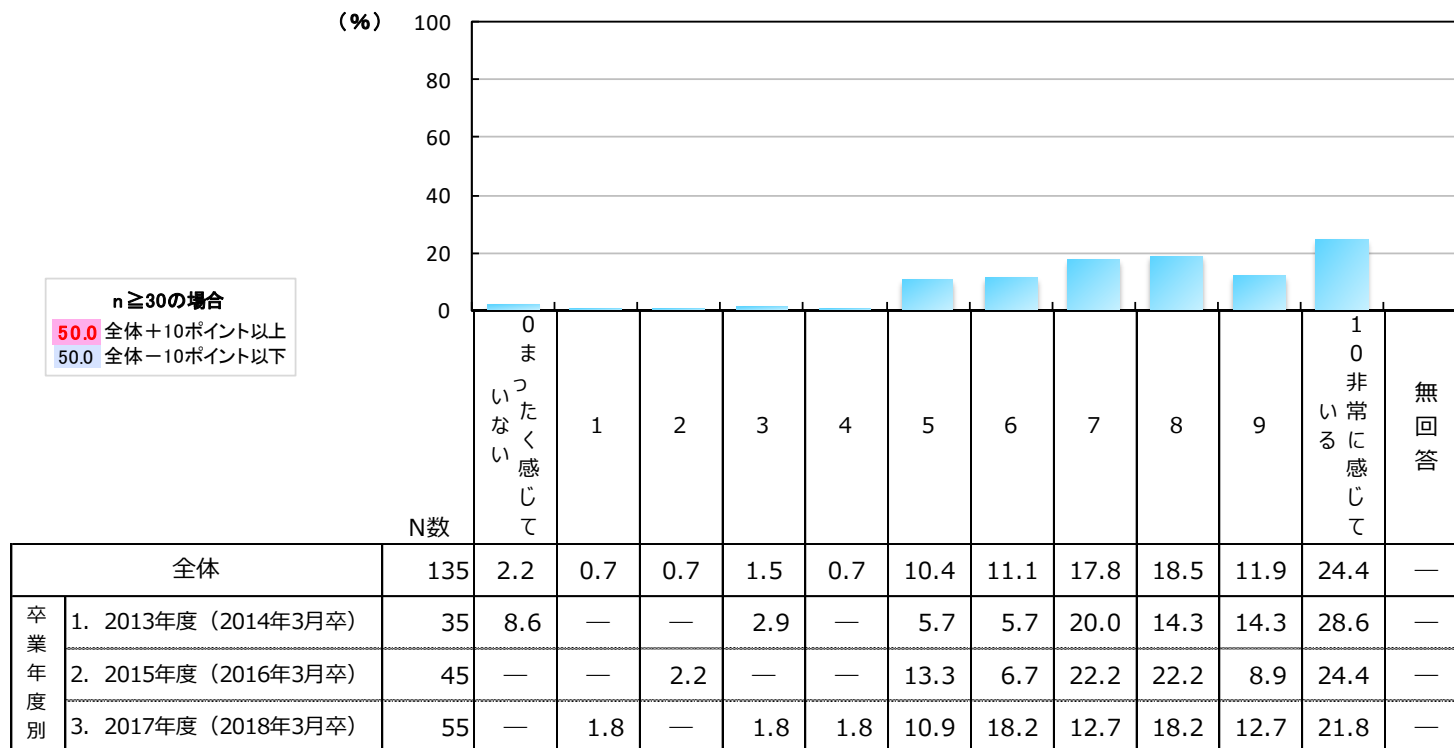


n ≥ 30の場合  
 50.0 全体+10ポイント以上  
 50.0 全体-10ポイント以下

# Q12：卒業満足度

✓ 「卒業満足度」11段階評価のボリュームゾーンは「10（非常に満足している）」で、2割強であった。

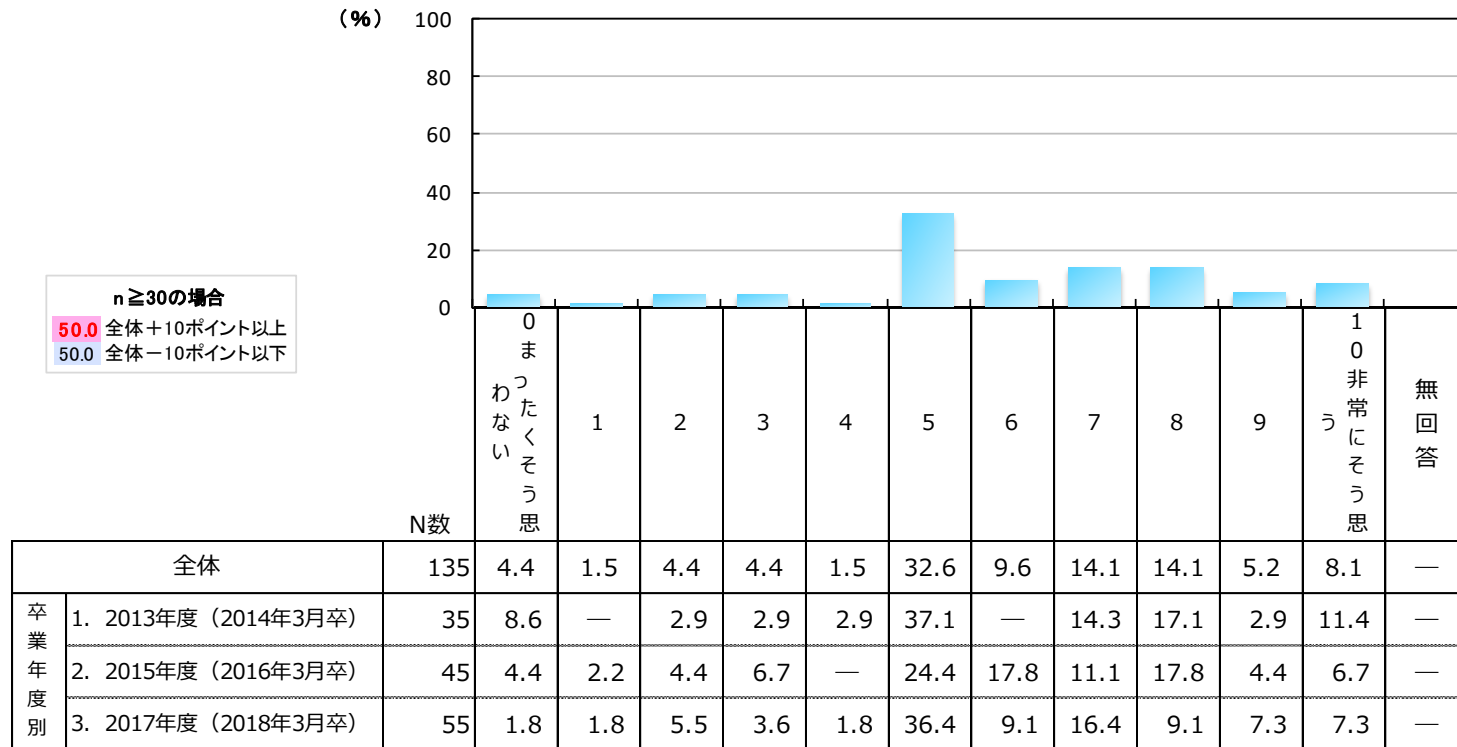
Q12. 現時点で、「十文字学園女子大学を卒業して良かった」と、どれくらい感じていますか？（単一回答）



# Q13：推奨度

✓ 「推奨度」11段階評価のボリュームゾーンは「5」で、3割強であった。

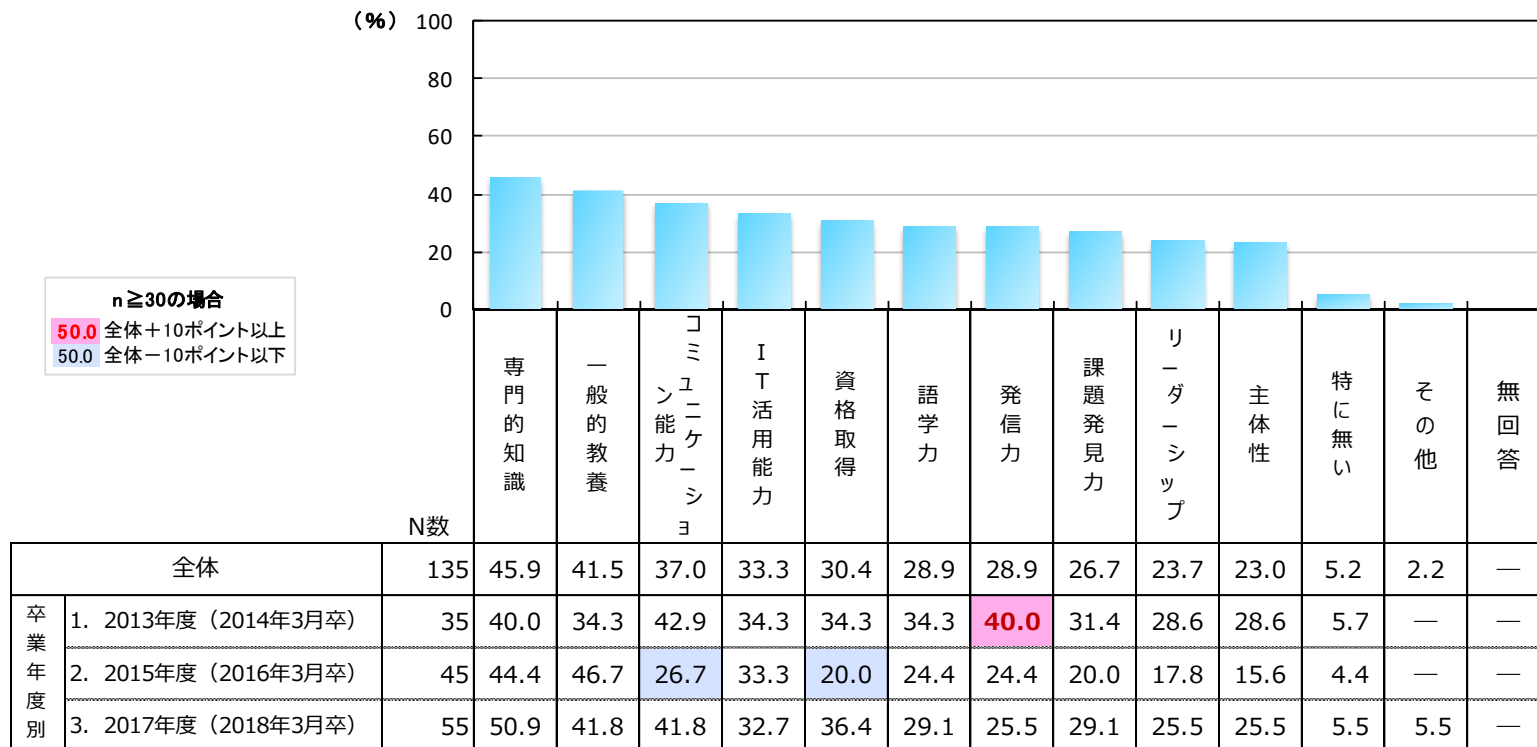
Q13. あなたは十文字学園女子大学に入学することを、家族や親しい友人・知人にすすめたいと思いますか？（単一回答）



# Q14：在学中にもっと身につけておきたかった能力

- ✓ 在学中にもっと身につけておきたかった能力（複数回答）のトップは「専門的知識」で5割弱、次いで「一般的教養」で4割程度であった。
- ✓ 2013年度卒は「発信力」が4割と、2017年度卒、2015年度卒と比べて高い。

Q14. 大学在学中にもっと身につけておきたかった能力（複数回答）

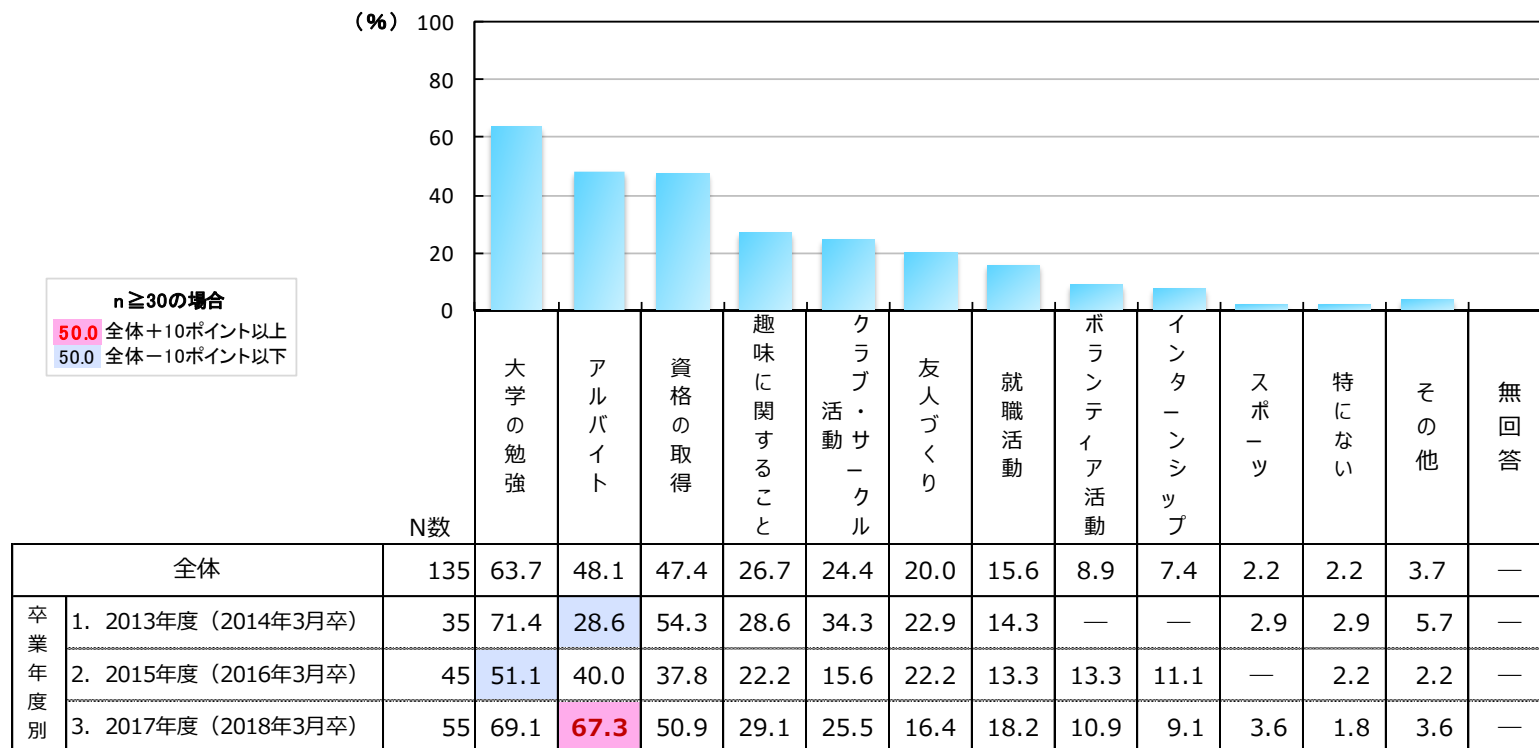




# Q15：在学中に力を入れた取り組み

- ✓ 在学中に力を入れた取り組み（複数回答）のトップは、「大学の勉強」（全体でおよそ6割）であった。
- ✓ 「アルバイト」は、2013年度卒は3割弱、2015年度卒は4割、2017年度卒は7割弱であり、卒業年度によって大きな差が見られ、卒業年度が若いほどアルバイトに力を入れている。

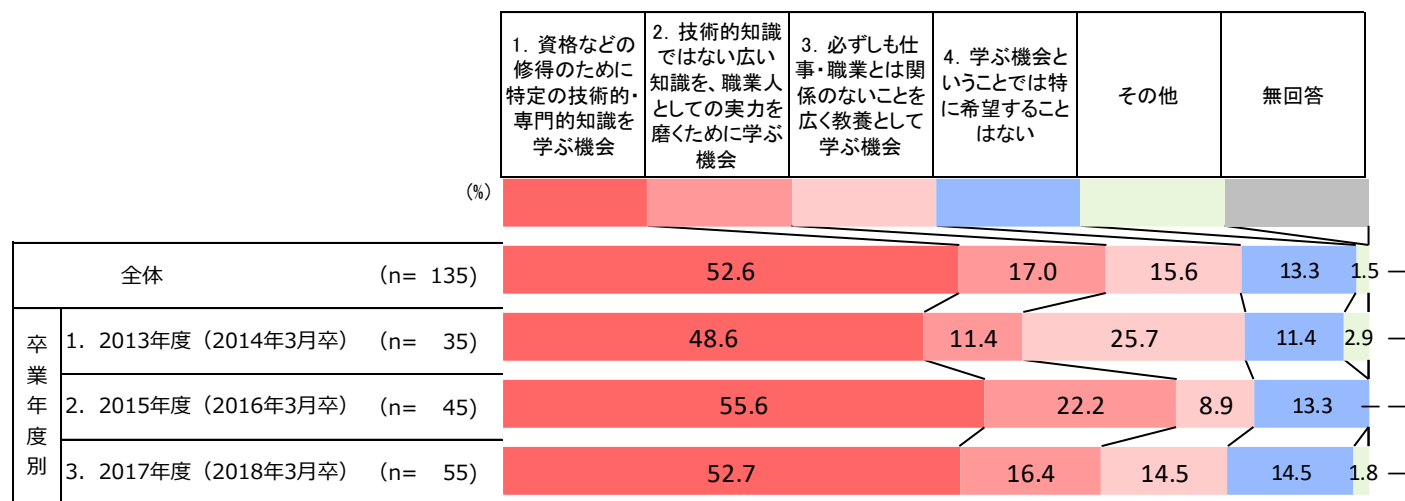
Q15. あなたが在学中に力を入れた取り組みをお答えください。（複数回答）



# Q16：今後本学で学ぶとしたらどのような機会にしたいか

- ✓ 「資格などの修得のために特定の技術的・専門的知識を学ぶ機会」がもっとも高く、5割以上を占める。
- ✓ 2013年度卒は「必ずしも仕事・職業とは関係のないことを広く教養として学ぶ機会」が26%と、2015年度卒（9%）、2017年度卒（15%）と比べて高い。

## ■ Q16. 今後なんらかの形で再び本学で学ぶとしたら、どのような機会にしたいと思いますか。（全体／単一回答）



# Q17：同窓会（若桐会）WEBサイトの閲覧

- ✓ 同窓会（若桐会）WEBサイトの閲覧経験があるのは全体で14%であった。
- ✓ 2013年度卒は閲覧経験ありが3割弱と、2015年度卒・2017年度卒（ともに9%）と比べて高い。

## ■ Q17. 十文字学園女子大学の同窓会（若桐会）のWEBサイトを見たことがありますか？（全体／単一回答）

